

# **Gentran:Server® for Windows®**

Extension for SAP R/3

ユーザーガイド

バージョン 5.0

**Sterling Commerce**  
An IBM Company

## 著作権に関する表示

### Gentran:Server for Windows

© Copyright 1995 - 2004  
Sterling Commerce, Inc.  
ALL RIGHTS RESERVED

### スターリング コマース ソフトウェア

営業秘密に関する表示

GENTRAN:SERVER FOR WINDOWS ソフトウェア (「スターリング コマース ソフトウェア」) は、米国スターリング コマース社、その関連企業またはそのライセンスの機密と営業秘密を有する財産であり、プロダクト使用契約の条件に基づいて提供されます。事前の書面による許可のない複製または開示は禁じられています。権利は制限されています。

本資料、本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェア、およびそれらに含まれる情報とノウハウは、スターリング コマース、その関連企業またはそのライセンスの専有的な、秘密の、財産的価値を有する営業秘密であり、許可されていない目的のために使用することおよび適正なスターリング コマースからの事前の書面による承認を受けることなく第三者に開示することは禁じられています。本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは、その複製、変更および使用を禁止または規制する条項が規定されたプロダクト使用契約に基づいて提供されます。複製を許可された場合には、複製が部分的であるか全体的であるかを問わず、その複製物にこの営業秘密表示とスターリングコマースの著作権表示を表示するものとします。

FAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料が提供された場合は、Title 48 CFR 52.227-19 による制限付きの権利として提供されます。また、DFAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料とスターリング コマース ソフトウェアが提供された場合は、商業用ソフトウェアと商業用ソフトウェア資料に関する Title 48 CFR 227-7202 の記載に基づくスターリング コマースの一般的な実施許諾契約に基づいて提供されます。

これらの条件の準拠法は、米国オハイオ州法 (法の抵触に関する規定を除く) が適用されます。締結済みの契約に基づいてスターリング コマース ソフトウェアを使用している場合には、これらの条件は当該締結済み契約に優先するものではなく、また、これを修正するものでもありません。

本資料に記載されている製品名は、該当各社の商標または登録商標である場合があります。Gentran 及び Gentran:Server はスターリングコマースの登録商標です。

### サードパーティソフトウェア

スターリング コマース ソフトウェアの一部には、サードパーティ (「サードパーティ ライセンサ」) から提供された製品 (「サードパーティソフトウェア」) が含まれる場合や、サードパーティソフトウェアと同一の記録媒体で配布される場合があります。

### 保証の放棄

本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは「現状のもの」として、またはスターリング コマースのプロダクト使用契約で規定された「限定保証」とともに提供されるものとします。「限定保証」以外には、商品性および特定目的への適合性を含みいかなる明示的および黙示的保証も行われぬものとします。スターリングコマースは適宜本表示を改訂し、又はその内容を変更できるものとし、その改訂又は変更をいかなる個人又は法人に対しても通知する義務を負わないものとします。

サードパーティソフトウェアは、商品性の黙示的保証および特定目的への適合性を含めて (ただしこれらに限定されない)、いかなる保証ならびに明示的および黙示的保証も伴わずに「現状のもの」として提供され、いかなる保証も行われません。また、米国国内に居住するか、本ソフトウェアを米国国内で使用している場合、所有権または権利の非侵害に関する明示的および黙示的保証は行われません。

# 目次

## 本書について

- ▶ 概要 ..... iv
- ▶ 本書の内容 ..... v
- ▶ サポート情報 ..... vi

## エクステンションの構成

- ▶ 概要 ..... 1-2
- ▶ [Connection Parameters] タブ ..... 1-4
- ▶ [General] タブ ..... 1-14
- ▶ [System] タブ ..... 1-16

## エクステンション プログラムの関数

- ▶ 概要 ..... 2-2
- ▶ Translate 関数 ..... 2-3
- ▶ Update 関数 ..... 2-5
- ▶ Extract 関数 ..... 2-7
- ▶ StartRFC 関数 ..... 2-9
- ▶ POSTPROC 関数 ..... 2-11

## サンプル マップの構成とテスト

- ▶ 概要 ..... 3-2
- ▶ サンプル マップの命名規則 ..... 3-3
- ▶ マッピング指示のカスタマイズ ..... 3-4
- ▶ マップのまとめ ..... 3-7

## ALE を使用したドキュメントの転送

- ▶ 概要 ..... 4-2
- ▶ ALE モードでの処理 ..... 4-3

## サポートされている SAP ステータス コード

- ▶ 概要 ..... A-2
- ▶ ステータス コード ..... A-3

## Windows における SAP システムのセットアップの推奨事項

- ▶ 概要 ..... B-2
- ▶ サンプル インバウンド処理のセットアップ ..... B-3
- ▶ サンプル アウトバウンド処理のセットアップ ..... B-5
- ▶ サンプル更新処理のセットアップ ..... B-6
- ▶ サンプル抽出処理のセットアップ ..... B-7
- ▶ Gentran:Server プロセス管理の記述 ..... B-8

## UNIX ホスト における SAP システムのセットアップの推奨事項

- ▶ 概要 ..... C-2
- ▶ サンプル インバウンド処理のセットアップ ..... C-3
- ▶ サンプル アウトバウンド処理のセットアップ ..... C-5
- ▶ サンプル更新処理のセットアップ ..... C-6
- ▶ サンプル抽出処理のセットアップ ..... C-8
- ▶ Gentran:Server プロセス管理 ..... C-11

## マルチポート処理

- ▶ 概要 ..... D-2

## IDoc ユーティリティの使用

- ▶ 概要 ..... E-2
- ▶ IDoc ユーティリティのインストールと構成 ..... E-4
- ▶ IDoc ユーティリティの実行 ..... E-6

---

# 本書について

## 目次

---

▶ 概要 .....	iv
▶ 本書の内容 .....	v
▶ サポート情報 .....	vi

---

## 概要

### はじめに

---

Gentran:Server<sup>®</sup> for Windows<sup>®</sup> Extension for SAP<sup>®</sup> R/3<sup>™</sup> をお買い上げいただきありがとうございます。このリリースは、Gentran:Server for Windows リリース 5.0 以降と互換性があり、SAP R/3 3.x および 4.x の E ビジネス ソリューションの導入を支援します。電子商取引のトランザクションと SAP アプリケーション ソフトウェアとの間の受信および伝送を処理するスターリング コマース製のインタフェースです。

### 製品の概要

---

この製品は使いやすく、電子商取引処理を円滑にして、お客様のビジネスにすぐ役立つことができます。Extension for SAP R/3 は、アウトバウンド IDoc のステータス情報を SAP に渡し、自動処理モードで IDoc を SAP に自動的に送信できるようにします。

### SAP R/3 Extension と SAP R/3 Gateway の違い

---

Gentran:Server for Windows Extension for SAP R/3 では、Gentran:Server システムと SAP システムとの間のコミュニケーションが可能です。IDoc のステータスコードにより、自社の Gentran:Server システムから送信される IDoc のトラッキング (トランスレーション、インターチェンジ、トレーディング パートナーへの送信、および受信確認) が可能です。したがって、使用している SAP システムに、特定の IDoc のステータスに関するステータス メッセージを送り返すことができます。

SAP R/3 Gateway は Gentran:Server Options Pack からインストールする別売りの製品です。SAP R/3 Gateway は、Gentran:Server for Windows EAI Server 製品と一緒に使用することができます。ゲートウェイは、SAP システムとの間で相互に IDoc を処理しますが、SAP から Gentran:Server に送信された IDoc のステータスはトラッキングしません。したがって、使用している SAP システムには特定の IDoc のステータスに関するステータス メッセージが送り返されません。

### Extension for SAP R/3 のインストール

#### 参照

Extension for SAP R/3 のインストールまたはアップグレードの詳細については『Installation and Upgrade Instructions Card』を参照してください。

---

# 本書の内容

## はじめに

---

このマニュアルには、Gentran:Server for Windows Extension for SAP R/3 のインストール手順が記載されています。また、エクステンションを正しく操作するために必要な構成および管理に関する情報も記載されています。

## 目的

---

このマニュアルは、次のマニュアルを補足する目的で書かれています。

- ▶ Gentran:Server for Windows 管理 ガイド
- ▶ Gentran:Server for Windows ユーザー ガイド
- ▶ Gentran:Server のオンライン ヘルプ システム

## 必要な知識

---

このマニュアルの前提知識として、次に関する知識が必要です。

- ▶ Microsoft® Windows オペレーティング システム
  - ▶ 一般的な管理機能
  - ▶ Windows および SAP の基本的な用語
  - ▶ SAP 管理
-

## サポート情報

### はじめに

スターリング コマース社では、Gentran:Server ソフトウェアに関する質問や問題についてお答えするため、熟練した製品サポート担当者によるサポートを提供しています。

#### メモ

Gentran:Server のカスタマ サポートは、スターリング コマース社以外の製品 (SQL Server、Oracle など) のサポートは行っていません。ただし、他社の製品を Gentran:Server と併用できるように構成するサポートは提供しています。

### 電話番号

ご利用になるサポート電話番号は、『インストール準備 カード』を参照してください。

### サポートに連絡する前に

迅速なサポートを提供するため、以下の事項についてご協力をお願いします。

- まず、発生した問題を再現してみて、イベントの正確な順序を記録してください。
- 製品サポートへのお問い合わせの際には、下記の情報をご用意ください。

情報	説明
ユーザー情報	会社名、氏名、電話番号および内線番号、およびケース番号 (以前に報告された問題を照会する場合)。
システム構成	Gentran:Server バージョン (およびインストールされているサービスパック)、プライマリ Gentran システム コントローラおよび問題が発生しているすべてのコンピュータの情報。Windows オペレーティングシステムのバージョン、搭載メモリ、有効ディスク容量、データベースバージョン、Microsoft Data Access (MDAC) のバージョン、および Internet Explorer のバージョン。  ハードウェア、ソフトウェア、およびシステムの構成に対して加えた最近の変更も記入してください。
システム データ ストア	どのコンピュータがシステム データ ストア内にフォルダを格納しているのか。  (次のページへ続く)



情報	説明
エラー メッセージ	表示されたエラー メッセージの正確な語句表現とソフトウェアでのエラーが発生した時点、およびログファイルも記録してください。
試みた解決策	問題の解決を試みた際の手順とその結果の記録、推定される問題の発生回数と問題を再生することができるかどうかを報告してください。

### スターリング コマース社 Support Web Site (英語) へのアクセス

スターリング コマース社 Customer Support Web Site は Gentran:Server for Windows のサポートに関する以下の重要な情報が記載されています。

- ▶ サポート サービスの範囲
- ▶ カスタマ サポート ポリシー
- ▶ 優先コール
- ▶ カスタマ サポートの電話番号一覧
- ▶ Support on Demand ケースの作成方法
- ▶ Support on Demand ケースのステータスの確認方法
- ▶ Support on Demand ケースへの情報追加の方法

Customer Support Web Site は常にアップデートされており、スターリング コマース製品のユーザーの皆様にご利用いただけます。この Web サイトには、最新の製品アップデート情報が記載されています。製品情報に関する重要な情報源としてご活用ください。

#### 参照

Customer Support World Wide Web Site へのアクセス方法に関する情報については、『インストール準備 カード』を参照してください。

### マニュアル

Customer Support Web Site にはドキュメント ライブラリがあり、Gentran:Server for Windows ドキュメント セットがすべて含まれています。随時このライブラリから製品マニュアルを PDF フォーマットでダウンロードできます。



---

# エクステンションの構成

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ [Connection Parameters] タブ .....	4
▶ [General] タブ .....	14
▶ [System] タブ .....	16

---



## 概要

### はじめに

Extension for SAP R/3 パッケージの一部である **Gentran:Server for Windows SAP Configuration** プログラムでは、このエクステンションをどのように稼動するかを指定できます。このプログラムを起動するには、[スタート]をクリックし、[プログラム]>[Gentran:Server]>[Gentran:Server for Windows SAP Configuration] を選択します。

### Gentran:Server for Windows SAP Configuration の図

次の図に、[Gentran:Server for Windows SAP Configuration] ダイアログ ボックスを示します。

Field	Label	Value
Program ID	-a	
SAP Version		3
SAP System ID	-d	
SAP Username	-u	
SAP User Password	-p	
SAP System Client	-c	
SAP System Language	-l	
SAP Application Server	-h	
SAP System ID Number	-s	
SAP Gateway Server	-g	
SAP Service	-x	
SAP EDI Port	-E Port=	
Filename		
Connection Name		[Default Inbound]

(次のページへ続く)

**タブ**

構成オプションは、3つのタブに分類され、Extension for SAP R/3 のそれぞれ異なる操作を管理します。次の表で、各タブについて説明します。

タブ名	指定する内容
Connection Parameters	Extension for SAP R/3 から送信されたデータを受信する、特定の SAP システム。
General	Extension for SAP R/3 で収集するステータスメッセージのタイプと、SAP プログラム STARTRFC の場所。
System	Extension for SAP R/3 で実際のトランスレーションを実行するネットワーク上のコンピュータと、エクステンションで使用するデータベースとデータベースへのアクセス情報を含むテーブル。

この章の各セクションでは、各タブの内容について詳細に説明します。

**ボタン**

[**Gentran:Server for Windows SAP Configuration**] ダイアログ ボックスの一番下には、一連のボタンが並んでいます。これらのボタンは、すべてのタブから使用することができます。次の表に、これらのボタンをまとめます。

ボタン	説明
<b>OK</b>	現在選択されているタブで選択した値を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。
<b>Cancel (キャンセル)</b>	現在選択されているタブで選択した値を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
<b>Apply (適用)</b>	現在選択されているタブで選択した値を保存します。ダイアログ ボックスは開いたままになります。
<b>Help (ヘルプ)</b>	現在選択されているタブのオンライン ヘルプが表示されます。

## [Connection Parameters] タブ

### はじめに

[Connection Parameters] タブでは、Extension for SAP R/3 から送信されたデータを受信する SAP システムを指定します。

一般的に、Extension for SAP R/3 は複数の SAP システムと対話します。たとえば多くの場合、テスト システム、開発システム、本番システムがあります。このため、Extension for SAP R/3 からステータス メッセージや EDI ドキュメントを SAP に送信する場合、どの SAP システムがこのデータを受信するかを指定する必要があります。Extension for SAP R/3 にこの情報を設定するには、**[Connection Parameters]** タブにある一連のボックスに値を指定します。これらの値が一体となって特定の SAP システムを識別します。これらの値は、**[Connection Name]** を識別子とし、データベース エントリとして書き込まれます。

このタブの設定は、Extension for SAP R/3 プログラム (**sapint.exe**) を、ステータスや EDI データを SAP に送信する機能とともに実行する際に使用されます。**sapint.exe** プログラムのパラメータとして接続名 (**[Connection Name]** ボックスで指定した、特定の構成パラメータのセットに対する識別子) を指定することで、ターゲットの SAP システムを指定します。次に Extension for SAP R/3 プログラムによって **STARTRFC** または **ALECLIENT** という SAP が提供するプログラムが呼び出され、パラメータに **[Connection Parameters]** タブの指定したグループの値が使用されます。**STARTRFC** (または **ALECLIENT**) プログラムによって、実際のデータの転送が実行されます。

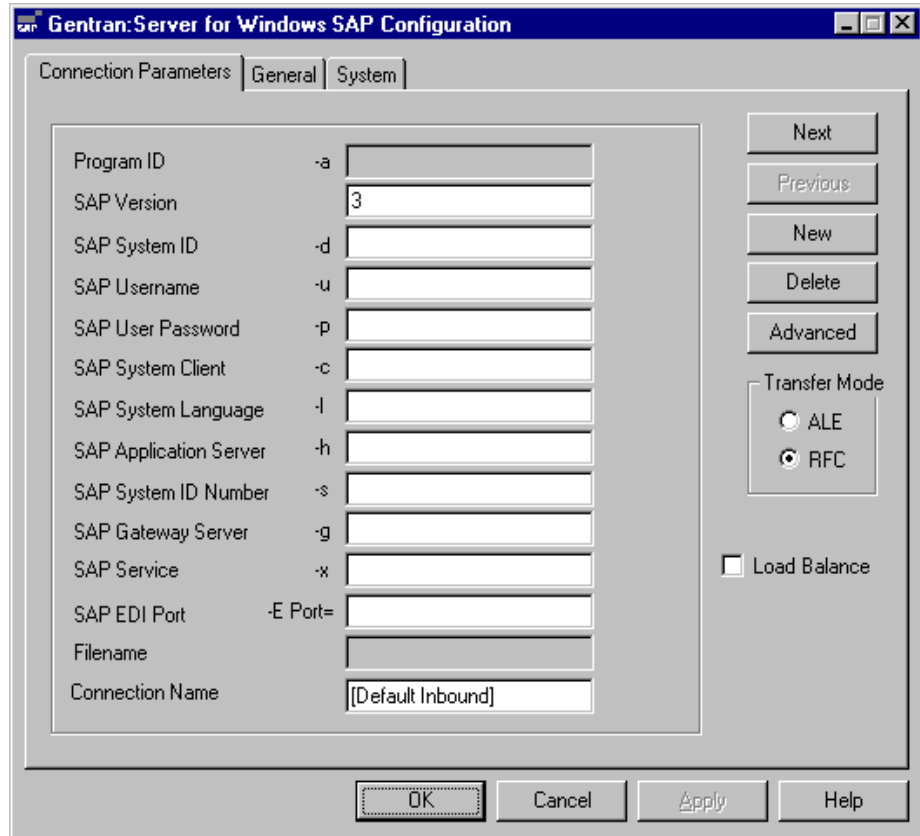
### 参照

**sapint.exe** プログラムとその機能については、第 3 章の「エクステンションプログラムの関数」を参照してください。

(次のページへ続く)

**[Connection Parameters] の図**

次に、[Gentran:Server for Windows SAP Configuration] ダイアログ ボックスの [Connection Parameters] タブを示します。



(次のページへ続く)

### [Connection Parameters] タブの各部と機能

次の表に、[Connection Parameters] タブの各部分とその機能をまとめます。また、該当するものについては例も併記してあります。

ボックス名	操作内容	例
Program ID (-a)	ALEServer に渡されたプログラム ID を表示します。 <b>メモ</b> このパラメータは、ALE 転送モードが選択されている場合にのみ使用できます。	<machine-name>. aleserver
SAP Version	IDoc のバージョン番号を入力します。	3 または 4
SAP System ID (-d)	SAP システムのシステム ID を入力します。 <b>見つけ方</b> SM51 を使用します。フィールドのアンダースコアで区切られた 2 番目の部分は、SAP システム ID を示しています。 <b>メモ</b> このボックスは、ALE モードでは無効になっています。	SSW
SAP Username (-u)	SAP システムにアクセスするためのユーザー ID を入力します。 <b>メモ</b> 特殊 CPI-C ユーザーは必須ではありません。	ED17
SAP User Password (-p)	SAP システムにアクセスするためのユーザーパスワードを入力します。 <b>メモ</b> [SAP User Password] ボックスに入力するパスワードは、データベース RFC テーブルにコミットする前に暗号化されます。	STERLING
SAP System Client (-c)	EDI_DC または EDI_DC40 コントロールレコードの [MANDT] フィールドに含まれる SAP システム クライアントを入力します。 <b>メモ</b> 既定値は <b>000</b> です。新しいレコードで規定値がプロンプトされることはありません。  (次のページへ続く)	040



( 続き ) ボックス名	操作内容	例
SAP System Language (-l)	SAP ユーザー言語を入力します。  <b>メモ</b> 既定値は <b>E</b> ( 英語 ) です。新しいレコードで規定値がプロンプトされることはありません。	E
SAP Application Server (-h)	アプリケーション サーバーを入力します。  <b>見つけ方</b> SM51 を使用します。フィールドのアンダースコアで区切られた最初の部分は、アプリケーション サーバーを示しています。  <b>メモ</b> このパラメータでは大文字と小文字が区別されます。このパラメータは [Load Balance] が選択されていない場合にのみ使用できます。	hwl138
SAP Message Server (-h)	ユーザーがログインするメッセージサーバーの名前を入力します。  <b>メモ</b> このパラメータでは大文字と小文字が区別されます。このパラメータは [Load Balance] が選択されている場合にのみ使用できます。	
SAP System ID Number (-s)	2桁のシステム ID 番号を入力します。  <b>見つけ方</b> SM51 を使用します。フィールドのアンダースコアで区切られた3番目の部分は、システム ID 番号を示しています。  <b>メモ</b> このパラメータは、[Load Balance] が選択されていない場合にのみ使用できます。	95
SAP System Name (-s)	ユーザーがログインする SAP システムの名前を入力します。  <b>メモ</b> このパラメータは、[Load Balance] が選択されている場合にのみ使用できます。  ( 次のページへ続く )	

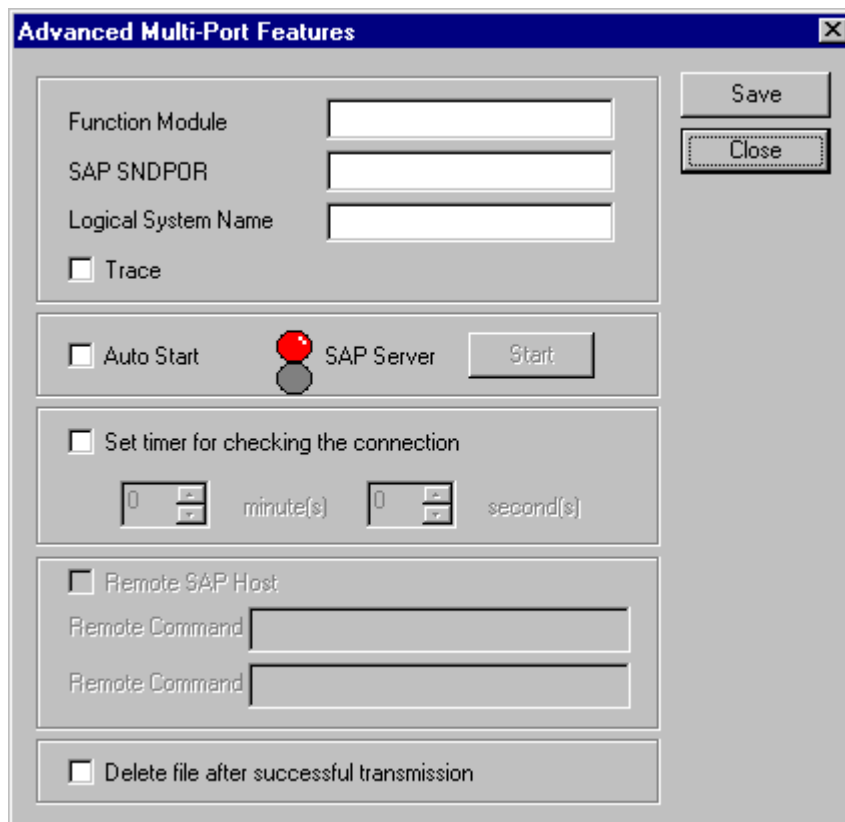
( 続き ) ボックス名	操作内容	例
SAP Gateway Server (-g)	ゲートウェイ サーバーを入力します。 <b>見つけ方</b> 次の操作を行います。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SE38 を使用します。</li> <li>2. レポート名「<b>rsparam</b>」を入力します。</li> <li>3. [Execute] を選択します。</li> <li>4. [System] &gt; [List] &gt; [Find String] を選択します。</li> <li>5. 「<b>rdisp/sna_g</b>」と入力します。</li> <li>6. 最初の行をクリックして、カーソルを配置します。</li> <li>7. 「<b>rdisp/sna_gateway</b>」の行でゲートウェイサーバーを見つけます。右側にスクロールします。</li> </ol> <b>メモ</b> このパラメータは、[Load Balance] が選択されていない場合にのみ使用できます。	hwl139
SAP Group Name (-g)	SAP システムにログインするグループの名前を入力します。 <b>メモ</b> このパラメータは、[Load Balance] が選択されている場合にのみ使用できます。	
SAP Service (-x)	/etc/services1 のゲートウェイ サービスを入力します。 <b>見つけ方</b> 次の操作を行います。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SE38 を使用します。</li> <li>2. レポート名「<b>rsparam</b>」を入力します。</li> <li>3. [Execute] を選択します。</li> <li>4. [System] &gt; [List] &gt; [Find String] を選択します。</li> <li>5. 「<b>rdisp/sna_g</b>」と入力します。</li> <li>6. 最初の行をクリックして、カーソルを配置します。</li> <li>7. 「<b>rdisp_gw_service</b>」の行でゲートウェイサーバーを見つけます。右側にスクロールします。</li> </ol> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>	sapgw95

( 続き ) ボックス名	操作内容	例
SAP EDI Port (-E Port=)	ポートの定義に既定されている EDI サブシステムの論理名を入力します。  名前には最高で 10 文字まで使用できます。	PORT= STERLING
Filename	ALESERVER によって SAP からダウンロードまたは転送した IDoc を書き込むファイルの名前を入力します。  <b>メモ</b> このパラメータは、ALE 転送モードが選択されている場合にのみ使用できます。	該当なし
Connection Name	Connection Parameters の一意な各セットを識別するのに使用する名前を入力します。	Inbound Data
Transfer Mode	データの転送に使用するモードを示します。	ALE または RFC
Load Balance	複数のユーザーが SAP システムにログインできるようにするには、このチェック ボックスを選択します。  <b>メモ</b> このパラメータを有効にすると、このダイアログ ボックスにあるいくつかのボックスの機能が変わります。	該当なし

( 次のページへ続く )

**[Advanced Multi-Port Features] の図**

次の図は、[Advanced Multi-Port Features] ダイアログ ボックスです。このダイアログ ボックスは、[Connection Parameters] タブで [Advanced] をクリックすると表示されます。



(次のページへ続く)

**[Advanced Multi-Port] の各部と機能**

次の表に、[Advanced Multi-Port Features] ダイアログ ボックスの各部分と機能をまとめます。

ボックス名	操作内容
Function Module	<p>SAP システムに送信されるデータのタイプを示す、次のいずれかの値を入力します。</p> <p><b>EDI_STATUS_INCOMING</b> — ステータス メッセージのファイルが、STARTRFC 処理用に送信されます。</p> <p><b>EDI_DATA_INCOMING</b> — トレーディング パートナーからの EDI ドキュメントが STARTRFC 処理用に送信されます。</p> <p><b>IDoc_INBOUND_ASYNCHRONOUS</b> — ステータスと EDI ドキュメントの両方を、ALE 処理用に SAP システムに送信する際に使用します。</p>
SAP SNDPOR	<p>Extension for SAP R/3 からステータス メッセージを受信する SAP ポートを入力します。ポート ID は、次のように構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 最初の部分は <b>SAP</b> です。</li> <li>▶ 2 番目の部分は <b>SAP システム ID</b> です。</li> </ul>
Logical System Name	<p>Windows の Gentrans:Server システムと UNIX の SAP システムの間のデータ転送に ALE を使用する予定の場合は、このテキスト ボックスに論理システム名を入力します。</p>
Trace	<p>SAP の STARTRFC プログラムでトレース ファイルを生成する場合はこのチェックボックスを選択します。トレース ファイルには、使用したパラメータ、接続したコンピュータ、送受信したデータ バッファ、および正常に終了したかどうか記録されます。トレース ファイルは通常、GENSRVNT¥Bin ディレクトリに書き込まれます。</p>
Auto start	<p>ALESERVER で RPCSRV が起動した際に、SAP サービスを自動的に起動する場合は、このチェックボックスを選択します。</p> <p><b>メモ</b> 構成パラメータの特定のセットに対し、一度に実行する ALESERVER は 1 つのみです。</p>
Start	<p>ALESERVER で、このボタンをクリックすると SAP サービスを起動できます。</p>
Set timer for checking the connection	<p>SAP システムが実行中の場合、接続が有効であることを確認するためのポーリングの間隔を設定するには、このチェックボックスを選択します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

ボックス名	操作内容
minute(s)	接続が有効かどうかを確認するために、システムでポーリングを行う間隔の分数を選択または入力します。
second(s)	接続が有効かどうかを確認するために、システムでポーリングを行う間隔の秒数を選択または入力します。
Remote SAP Host	SAP システムが UNIX で実行中、Gentran:Server と SAP の間でファイルベースの転送を使用する予定の場合は、このチェックボックスを選択します。
Remote Command	Gentran:Server から UNIX 上の SAP へのファイルベースの転送を実行する際に使用するコマンドを入力します。ステータス メッセージを含む IDoc の転送に使用されます。(たとえば、ftp や rcopy)  このボックスは、[Remote SAP Host] チェックボックスを選択した場合にのみアクティブになります。
Remote Command	ステータス メッセージが書き込まれた IDoc を転送する UNIX のディレクトリとファイル名を入力します。  このボックスは、[Remote SAP Host] チェックボックスを選択した場合にのみアクティブになります。
Delete file after successful transmission	転送が正常に終了した後にシステムでファイルを削除する場合は、このチェックボックスを選択します。
Save	変更を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。
Close	変更を保存せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。

## 手順

次の手順に従って、[Connection Parameters] タブに値を入力し、特定の SAP システムを指定します。

ステップ	操作
1	Gentran:Server for Windows SAP Configuration プログラムを起動します。  <b>参照</b> このプログラムの起動方法の詳細については、この章の「概要」のセクションを参照してください。
2	[Connection Parameters] タブを選択します。  (次のページへ続く)

( 続き ) ステップ	操作
3	各ボックスに値を入力します。  <b>参照</b> 適切な値については、「[Connection Parameters] タブのボックス」のセクションを参照してください。
4	[Advanced] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> [Advanced Multi-Port Features] ダイアログ ボックスが表示されます。
5	関連するボックスに値を入力します。  <b>参照</b> 適切な値については、「[Advanced Multi-Port Features] のボックス」のセクションを参照してください。
6	[Save] > [Close] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> [Advanced Multi-Port Feature] ダイアログ ボックスが閉じ、[Connection Parameters] タブが再度表示されます。
7	[適用] をクリックして、この値のグループを保存します。
8	別の SAP システムのために、別の値のグループを追加するかどうかによって、次を選択します。  追加する場合は、[New] をクリックして、ステップ 2 ~ 6 を繰り返します。 追加しない場合は、次のいずれかを行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ほかの作業のために、[Gentran:Server for Windows SAP Configuration] ダイアログ ボックスを開いたままにしておきます。または、</li> <li>▶ [OK] をクリックしてこのダイアログ ボックスを閉じます。</li> </ul>

### グループのナビゲートと削除

作成した複数の値グループ間をナビゲートするには、[Next] と [Previous] をクリックします。

特定のグループを削除するには、目的のグループにナビゲートしてタブに表示し、[Delete] をクリックします。グループが削除されます。削除を確認するメッセージは表示されません。

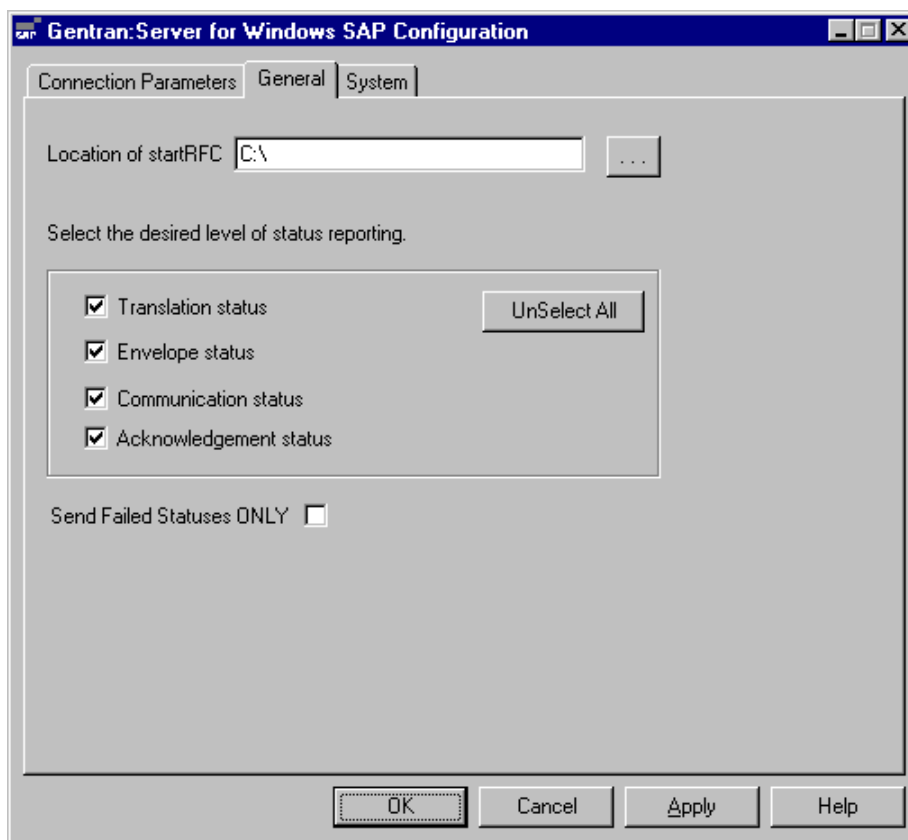
## [General] タブ

### はじめに

[Gentran:Server for Windows SAP Configuration] の [General] タブでは、SAP によって提供されるプログラムである STARTRFC の場所と、Extension for SAP R/3 で収集するステータス メッセージのタイプを指定することができます。

### [General] タブの図

次の図に、[Gentran:Server for Windows SAP Configuration] ダイアログ ボックスの [General] タブを示します。




(次のページへ続く)



[General] タブの各部と機能

次の表に、[General] タブの各部分とその機能をまとめます。

ボックス名	操作内容
Location of startRFC	<p>SAP によって提供される STARTRFC プログラムのあるディレクトリを入力します。参照ボタン</p>  <p>をクリックして見つけることもできます。</p> <p><b>メモ</b> startRFC プログラムのテスト バージョンは、<b>Gentran:Server for Windows</b> をインストールした際に <b>GENSRVNT¥bin</b> フォルダにコピーされています。このバージョンのプログラムは、テスト用です。</p>
Translation status	IDoc から EDI ドキュメントへのトランスレーションの進捗状況を表すステータス メッセージを返すには、このチェックボックスを選択します。
Envelope status	トレーディング パートナーに送信する EDI ドキュメントのエンベロープの進捗状況に関するステータス メッセージを返すには、このチェックボックスを選択します。
Communication status	トレーディング パートナーへの EDI ドキュメントの送信の進捗状況に関するステータス メッセージを返すには、このチェックボックスを選択します。
Acknowledgement status	トレーディング パートナーからファンクショナルとインターチェンジの受信確認を受け取ったかどうかに関するステータス メッセージを返すには、このチェックボックスを選択します。
UnSelect All	ステータス レポート領域にあるチェックボックスをすばやくクリアするには、[UnSelect All] をクリックします。すべてのチェックボックスが一度にクリアされます。
Send Failed Status ONLY	任意の処理のエラーを示すステータス メッセージのみを返すには、このチェックボックスを選択します。

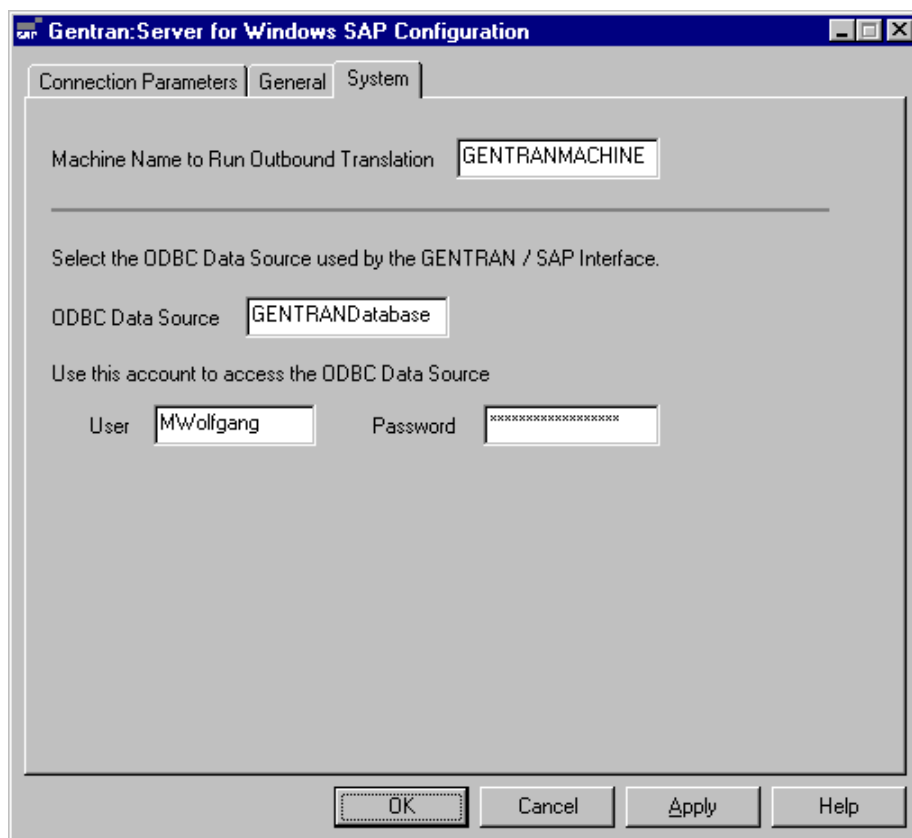
## [System] タブ

### はじめに

[System] タブでは、IDoc から EDI ドキュメントへの実際のトランスレーションを実行するコンピュータを指定できます。また、Extension for SAP R/3 で生成および使用される IDoc データやその他の情報を保管するテーブルを含むデータベースも指定できます。

### [System] タブの図

次の図に、[Gentran:Server for Windows SAP Configuration] ダイアログボックスの [System] タブを示します。



(次のページへ続く)

**[System] タブの各部と機能**

次の表に、[System] タブにあるボックスをまとめます。

ボックス名	操作内容
Machine Name to Run Outbound Translation	IDoc から EDI ドキュメントへの実際のトランスレーションを実行する、ネットワーク内のコンピュータの名前を入力します。
ODBC Data Source	<p>Gentran:Server システムで使用する ODBC データソースの名前を入力します。この ODBC データソースに対応するデータベースには、インストール中に作成された Extension for SAP R/3 のテーブルが含まれている必要があります。</p> <p><b>参照</b>                      詳細については、『Installation and Upgrade Instructions Card』の「Completing the Pre-Installation Checklist」を参照してください。</p>
User	<p>ODBC データソースにアクセス可能なアカウントのユーザー ID を入力します。</p> <p><b>参照</b>                      詳細については『Installation and Upgrade Instructions Card』の「Completing the Pre-Installation Checklist」を参照してください。</p>
Password	<p>ODBC データソースにアクセス可能なアカウントのパスワードを入力します。</p> <p><b>参照</b>                      詳細については、『Installation and Upgrade Instructions Card』の「Completing the Pre-Installation Checklist」を参照してください。</p>



---

# エクステンション プログラムの関数

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ Translate 関数 .....	3
▶ Update 関数 .....	5
▶ Extract 関数 .....	7
▶ StartRFC 関数 .....	9
▶ POSTPROC 関数.....	11

---

## 概要

### はじめに

Extension for SAP R/3 プログラムの **sapint.exe** では、SAP システムと Gentran:Server システムの間でデータを交換するプロセスのさまざまなステップを実行する、4 つの異なる関数を実行することができます。

このプログラムと上記の関数の 1 つを **Gentran:Server プロセス管理セッション** で実行します。

#### 参照

sapint.exe プログラムと各関数を含む Gentran:Server プロセス管理セッションの例については、付録 B (SAP システムが Windows で実行している場合) または付録 C (SAP システムが UNIX で実行している場合) を参照してください。これらのサンプルセッションは、SAP と Gentran:Server の間でシームレスなドキュメント交換を行う方法を示します。

### 接続の問題のトラブルシューティング

sapint.exe プログラムから Extension プログラムの関数を呼び出す際の接続の問題をトラブルシューティングするには、**GENSRVNT¥¥BIN¥¥SAPINT.LOG** ファイルに書き込まれる **sapint.log** を表示してください。

### ドキュメント フロー別の関数

各関数は、ドキュメントのフローの方向に従ってグループ化することができます。次のようにグループ化できます。

#### SAP から Gentran:Server へ IDoc を処理する関数

- ▶ Translate
- ▶ Update
- ▶ Extract

#### Gentran:Server から SAP へ EDI ドキュメントを処理する関数

- ▶ StartRFC

この章の各セクションでは、各関数を詳細に説明します。

## Translate 関数

### 説明

Translate 関数では、IDoc データを EDI 形式に変換する `Gentran:Server` コマンドが呼び出されます。また、データベースの `SAPStatus_tb` テーブルに次のものが挿入されます。

- ▶ 一意の IDoc 番号
- ▶ IDoc からのその他の重要な情報
- ▶ トランスレーションプロセスの進捗状況を示すステータス メッセージ

### シンタックス

Translate 関数を使用する `sapint.exe` プログラムを `Gentran:Server` セッションで指定するには、次のシンタックスを使用します。

**`sapint.exe -Translate:unc_filename`**

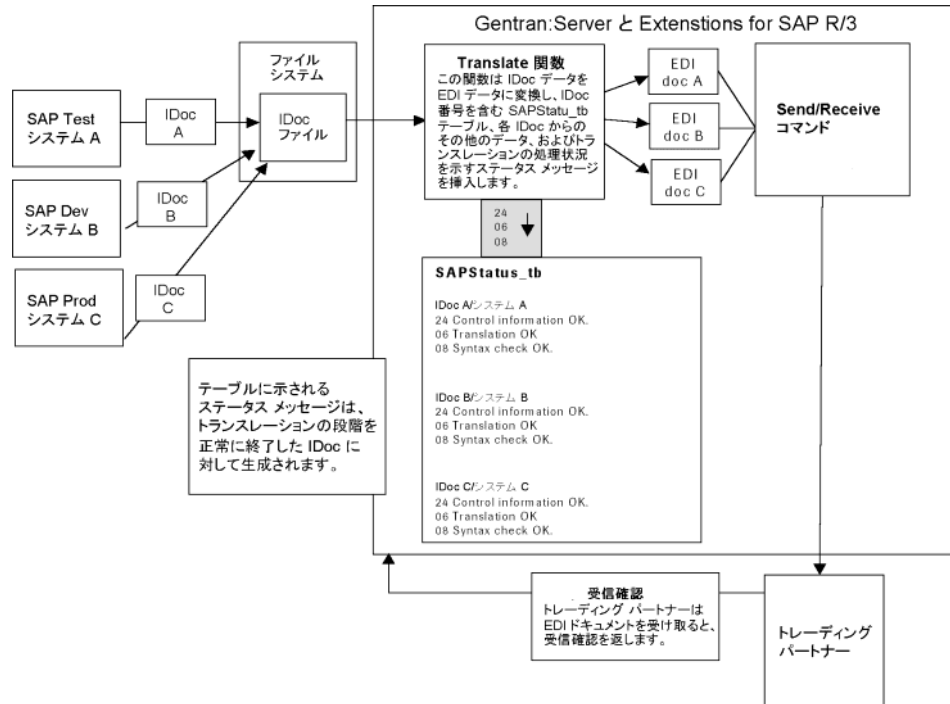
#### コメント

`unc_filename` は Translate 関数で使用されるファイルの名前です。このファイルには、`Gentran:Server` にインポートする IDoc が含まれています。

(次のページへ続く)

## 処理の図

次の図は、Gentran:Server からトレーディング パートナーを介した SAP からの IDoc の経路を示しています。SAP システムと Gentran:Server システムの間でデータを交換する際に、Translate 関数が果たす役割を示します。





## Update 関数

### 説明

Update 関数は Gentran:Server システムを通して IDoc の進捗状況を追跡します。特に次の段階です。

- ▶ データのエンベロープ
- ▶ トレーディング パートナーへの伝送
- ▶ トレーディング パートナーからの受信確認

また、各段階が正常に終了したかどうかに応じて、適切なステータス メッセージを SAPStatus\_tb テーブルに挿入します。

### シンタックス

Update 関数を使用する sapint.exe プログラムを Gentran:Server セッションで指定するには、次のシンタックスを使用します。

**sapint.exe -UPDATE:**

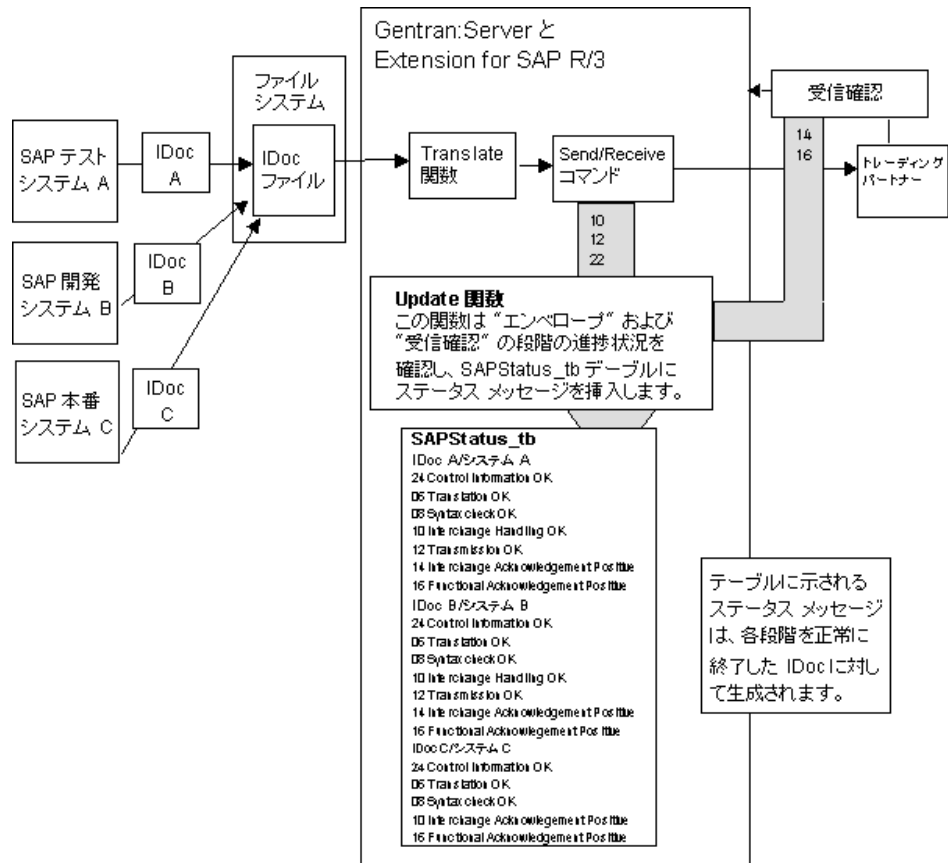
#### メモ

Update 関数には、パラメータはありません。

(次のページへ続く)

## 処理の図

次の図は、Gentran:Server からトレーディング パートナーを介した SAP からの IDoc の経路を示しています。SAP システムと Gentran:Server システムの間でデータを交換する際に、Update 関数が果たす役割を示します。



## Extract 関数

### 説明

Extract 関数は、ファイルを作成し、特定の SAP システム (たとえば、本番システム、テスト システム、開発システムなど) から送信され、処理された各 IDoc に関連するすべてのステータス メッセージを `SAPStatus_tb` テーブルに書き込みます。このステータス メッセージのファイルを SAP システムに送信するために、Extract 関数では次のものが呼び出されます。

- ▶ SAP の STARTRFC プログラム — システムでファイルベースの転送を使用している場合。
- ▶ Extension for SAP R/3 で提供されている **aleclient** コマンド — システムでデータの転送に ALE を使用している場合。

### シンタックス

Extract 関数を使用する `sapint.exe` プログラムを `Gentran:Server` セッションで指定するには、次のシンタックスを使用します。

**sapint.exe -Extract:unc\_pathname -PATH:connection name**

#### コメント

`unc_pathname` は、Extract 関数で生成したステータス メッセージのファイルに付ける、完全修飾パスです。

#### メモ

ファイル名は `Gentran:Server for Windows` によって生成されます。Unix では、ファイル名を指定する必要があります。

`connection name` は、SAP の STARTRFC プログラムで使用する RFC パラメータの一意のセットを識別するために使用します。このパラメータのグループは、ステータス メッセージのファイルを受信する SAP システムを示します。`connection name` の値は、Extension for SAP R/3 の **[SAP Configuration]** ダイアログ ボックスの **[Connection Name]** ボックスで確認できます。

#### メモ

**[RFC Parameters]** タブにある名前が 8 文字を超える場合は、**[Connection Name]** の値を引用符で囲みます。

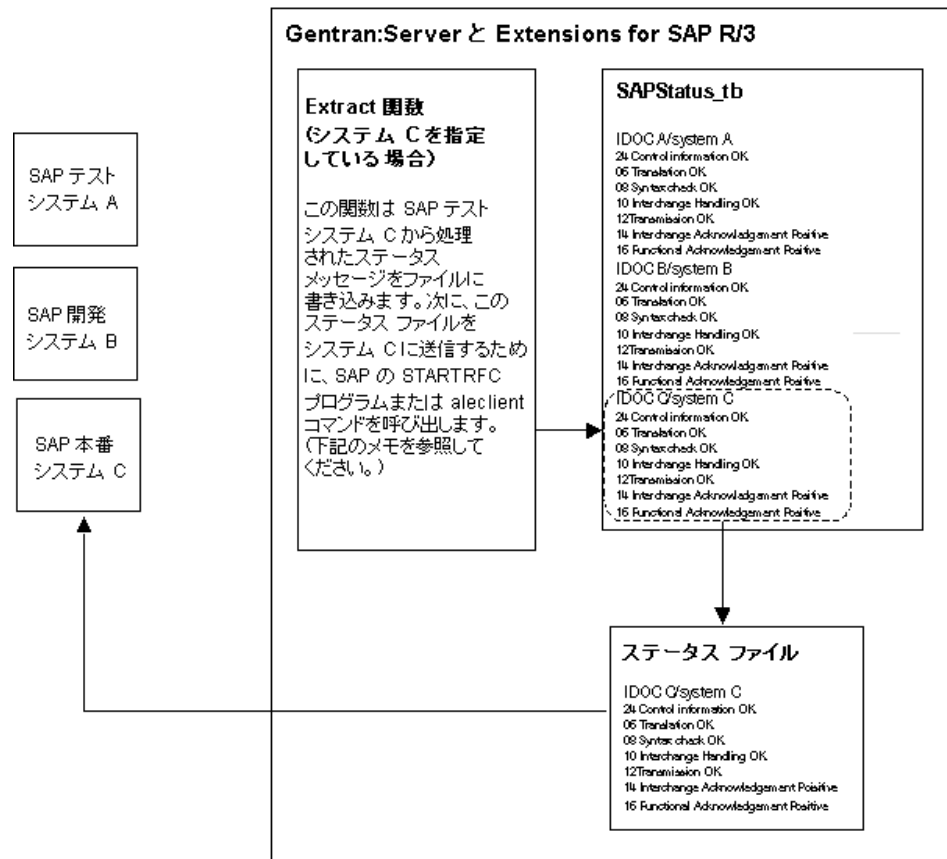
#### 参照

**[SAP Configuration]** ダイアログ ボックスの **[Connection Name]** ボックスの詳細については、「エクステンションの構成」の章 (「**[Connection Parameters]** タブ」のセクション) を参照してください。

(次のページへ続く)

## 処理の図

次の図は、ステータス メッセージのファイルが特定の SAP システムに送信される際の流れを示しています。SAP システムと Gentran:Server システムの間でデータを交換する際に、Extract 関数が果たす役割を示します。



## メモ

システム A とシステム B でも同じ処理を繰り返すには、2つのコマンド — システム A を指定したコマンドと、システム B を指定したコマンドを追加する必要があります (システム C を参照)。

## StartRFC 関数

### 説明

EDI ドキュメントを IDoc に変換後、StartRFC 関数を使用して SAP の STARTRFC プログラムを呼び出します。このプログラムは、データ転送を行うために SAP システムにコンタクトします。次に、IDoc が SAP システムに転送されます。

### メモ

StartRFC 関数と SAP の STARTRFC プログラムの違いをよく理解してください。Extension for SAP R/3 で提供されている StartRFC 関数では、SAP の STARTRFC プログラムを間接的に呼び出すことが可能となります。これにより、StartRFC 関数において SAP による *connection name* パラメータを使用した STARTRFC プログラムへのパラメータ値の提供が自動化されるか、データの転送に ALE を使用する場合は、Extension for SAP R/3 で提供されている **aleclient** コマンドが呼び出されます。

### シンタックス

StartRFC 関数を使用する sapint.exe プログラムを Gentran:Server セッションで指定するには、次のシンタックスを使用します。

**sapint.exe -STARTRFC:unc\_pathname -PATH:connection name**

### コメント

*unc\_pathname* は、EDI ドキュメントから IDoc に変換され、SAP システムに転送されたファイルの完全修飾されたファイル名です。

*connection name* は、SAP の STARTRFC プログラムで使用する RFC パラメータの一意的なセットを識別するために使用します。このパラメータのグループは、IDoc を受信する SAP システムを示します。*connection name* の値は、Extension for SAP R/3 の [SAP Configuration] ダイアログ ボックスの [Connection Name] ボックスで確認できます。

### メモ

[RFC Parameters] タブにある名前が 8 文字を超える場合は、[Connection Name] の値を引用符で囲みます。

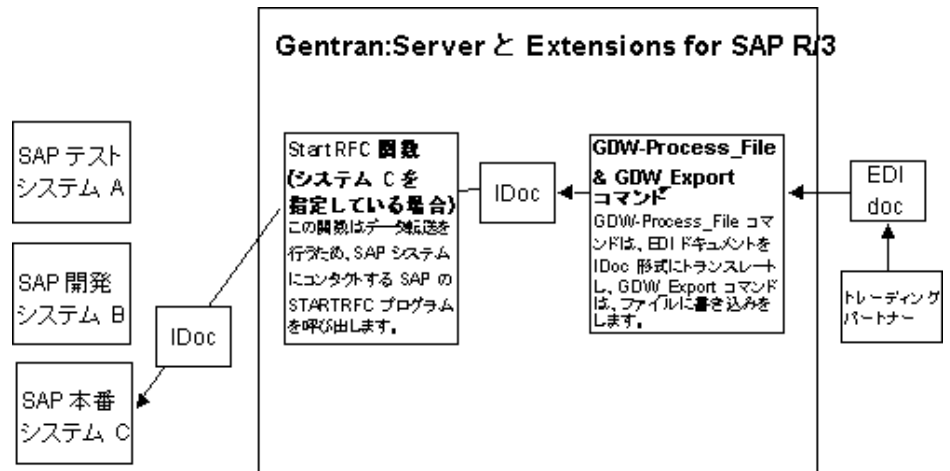
### 参照

[SAP Configuration] ダイアログ ボックスの [Connection Name] ボックスの詳細については、「エクステンションの構成」の章（「[RFC Parameters] タブ」のセクション）を参照してください。

(次のページへ続く)

## 処理の図

次の図は、トレーディング パートナーから Gentran:Server を通じ、SAP システムまでの EDI ドキュメントの流れを示しています。SAP システムと Gentran:Server システムの間でデータを交換する際に、StartRFC 関数が果たす役割を示します。



# POSTPROC 関数

## 説明

Sapint.exe の POSTPROC 関数は、Gentran:Server 内部で、Sapint.exe の StartRFC 関数を通じて SAP に送信する前に、エクスポートされた IDoc に基づいて変更されたヘッダー セグメントで新しい IDoc を作成するために使用されます。

この関数ではヘッダー セグメントの MANDT(client)、RCVPRT、SNDPRT、および DOCREL フィールドが、コマンドで指定された [Connection Parameters] の値で更新されます。

Sapint.exe の POSTPROC 関数では、*filename\_and\_path\_to\_exported\_IDoc* パラメータで参照されている元のファイルが変更されることはありません。元の IDoc と同じディレクトリに新しいファイルが作成され、「**sapidoc.new**」という名前が付けられます。

## シンタックス

POSTPROC 関数を使用する sapint.exe プログラムを Gentran:Server セッションで指定するには、次のシンタックスを使用します。

**D:¥GENSRVNT¥Bin¥Sapint.exe -POSTPROC:filename\_and\_path\_to\_exported\_IDoc -PATH:Connection Name/Scan Directory**

**sapint.exe -STARTRFC:unc\_pathname -PATH:connection name**

### コメント

*filename\_and\_path\_to\_exported\_IDoc* は変更され、SAP システムに転送される、エクスポートされた IDoc の完全修飾されたパスとファイル名 (ローカルパスか、UNC パス) です。

IDoc の変更を使用する [Connection Parameters] の [Connection Name/Scan Directory] の識別には、[*Connection Name/Scan Directory*] が使用されます。このパラメータのグループは、IDoc を受信する SAP システムを示します。*connection name* の値は、Extension for SAP R/3 の [SAP Configuration] ダイアログ ボックスの [Connection Name] ボックスで確認できます。

### メモ

[RFC Parameters] タブにある名前が 8 文字を超える場合は、[Connection Name] の値を引用符で囲みます。

### 参照

[SAP Configuration] ダイアログ ボックスの [Connection Name] ボックスの詳細については、「エクステンションの構成」の章 (「[RFC Parameters] タブ」のセクション) を参照してください。





---

# サンプル マップの構成とテスト

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ サンプル マップの命名規則 .....	3
▶ マッピング指示のカスタマイズ .....	4
▶ マップのまとめ .....	7

---

## 概要

### はじめに

---

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムでは、アプリケーション ファイルをパートナーへ送信する EDI 標準形式のドキュメントにトランスレーション (アウトバウンド マッピング) することができます。また、パートナーから受信したドキュメントについては、EDI 標準形式からアプリケーションの形式にトランスレーション (インバウンド マッピング) できます。

#### 参照

アプリケーション インテグレーション サブシステムの使用の詳細については、『Gentran:Server アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。

### 本章の内容

---

この章では、すべてのアウトバウンド マップに対して SAP IDoc 番号を設定する方法を説明します。また、完成したマップを保存、コンパイル、およびテストする手順についても説明します。

---

# サンプル マップの命名規則

## はじめに

Extension for SAP R/3 ソフトウェアには、サンプルのマップとトランスレーションオブジェクトが付属しています。Extension for SAP R/3 をインストールすると、サンプル マップは Gentran:Server がインストールされている場所の Extensions サブディレクトリにコピーされます。

変更するマップはソース マップで、.MAP ファイル拡張子が付いています。このソース マップをコンパイルすると、コンパイルされたトランスレーションオブジェクトに .TPL ファイル拡張子が付けられます。

## ANSI でのサンプルの命名規則

これは、ANSI 形式を使用したサンプル マップまたはトランスレーションオブジェクトです。



## EDIFACT でのサンプルの命名規則

これは、EDIFACT 形式を使用したサンプル マップまたはトランスレーションオブジェクトです。



## マッピング指示のカスタマイズ

### はじめに

Gentran ドキュメント トラッキング データベースの適切なアプリケーション フィールドに SAP IDoc 番号を保存するには、マッピング指示をカスタマイズする必要があります。

#### 要件

- ▶ アウトバウンド データの前処理中に配列に保管された番号との一致を行えるように、IDoc 番号が Document\_tb にあることが必要です。
- ▶ IDoc 番号を保存して、Extension for SAP R/3 で DOCNUM (IDoc 番号) を含むステータス レコード (EDI\_DS) を作成できるようにします。

### ステータス レコードの使用

SAP ではステータス レコードを使用して、作成したすべてのアウトバウンド IDoc のステータスが提供されます。DOCNUM を含まないステータス レコードは、SAP によって拒否されます。

### IDoc 番号の場所

SAP IDoc 番号は、SAP からのアウトバウンドとして作成された各 IDoc の EDI\_DC または EDI\_DC40 コントロール レコードの DOCNUM フィールドに含まれます。

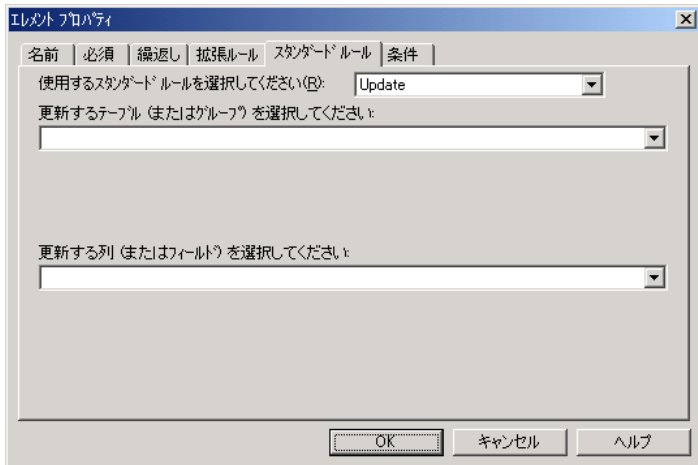
#### 要件

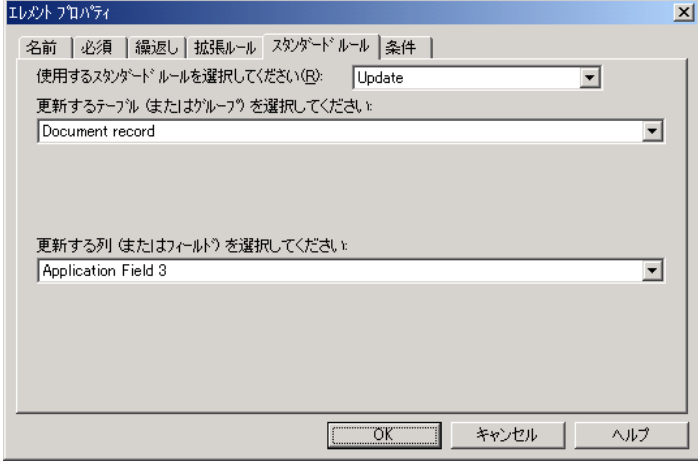
- ▶ IDoc 番号を Document\_tb のユーザー定義の [Application Field 3] に保存します。
- ▶ IDoc の EDI\_DC または EDI\_DC40 レコードにある DOCNUM フィールドを使用します。

(次のページへ続く)

**SAP IDoc 番号を  
見つける方法**

次の手順を使用して、Extension for SAP R/3 が SAP IDoc 番号を見つけられるようにします。

ステップ	操作
1	アプリケーション インテグレーション プログラムを起動します。
2	Extension for SAP R/3 で使用するトランスレーション オブジェクトを開き、EDI_DC コントロールレコードを選択します。
3	EDI_DC または EDI_DC40 レコードの DOCNUM フィールドを右クリックして [プロパティ] を選択します。  <b>システムからの応答</b> [フィールド プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[スタンダード ルール] タブを選択し、[Update] オプションを選択します。   <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
5	[ 更新するテーブル ( またはグループ ) を選択してください ] リストから [ <b>Document record</b> ] を選択します。
6	<p>[ 更新する列 ( またはフィールド ) を選択してください ] リストから [ <b>Application Field 3</b> ] を選択し、[ <b>OK</b> ] をクリックします。</p>  <p><b>制限</b> [Application Field 4] と [Application Field 5] にはマップは行わないでください。これらのフィールドは SAPINT プログラムで使用するために予約されています。</p>

## マップのまとめ

### はじめに

マップをカスタマイズして、IDoc 番号を定義したら、マップをまとめます。マッピングを完了するには、マップをコンパイルし、トランスレーション オブジェクトを登録し、トランスレーション オブジェクトをテストする必要があります。

SAPMaps サブディレクトリにある Extension for SAP R/3 マップを保存して、再コンパイルしたら、元のマップとコンパイルしたトランスレーション オブジェクトを、新しくカスタマイズしたもので上書きします。カスタマイズしたマップとコンパイルしたトランスレーション オブジェクトを保管するか、元のファイルを置換することができます。

### マップのコンパイル方法

コンパイルを実行すると、マップがコンパイルされ、トランスレーション オブジェクトが生成されます。トランスレーション オブジェクトを保存したら、使用する前に Gentran:Server に登録する必要があります。

マップをコンパイルして、トランスレーション オブジェクトを生成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	アプリケーション インテグレーション プログラムを起動します。
2	[ファイル]メニューから [保存] を選択して、コンパイルを実行する前にソース マップを保存します。
3	<p>[ファイル]メニューから [コンパイル] を選択して、[実行トランスレーション オブジェクト名] ダイアログ ボックスを表示します。</p> <p><b>メモ</b> [ファイル名] フィールドには、.TPL ファイル拡張子をもつトランスレーション オブジェクト名がすでに表示されています。同じファイル名 (ファイル拡張子は別) を使う理由は、ソース マップとコンパイルされたトランスレーション オブジェクトの関連付けが明白だからです。</p> <p><b>注意</b> ソース マップをコンパイルしたトランスレーション オブジェクトで上書きしないでください。.TPL ファイル拡張子を使用して、ソース マップとトランスレーション オブジェクトを区別します。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
4	<p>必要に応じて、コンパイルしたトランスレーション オブジェクトを保管するドライブとフォルダを変更します。</p> <p><b>注意</b> コンパイルしたトランスレーション オブジェクトは、<b>GENSRVNT\REGTRANSOBJ</b> サブディレクトリには保管しないでください。このサブディレクトリは、<b>GENTRAN:SERVER</b> に登録した各トランスレーション オブジェクトのコピーを保管するために予約されています。</p>
5	<p>[保存] をクリックします。マップがコンパイルされ、トランスレーション オブジェクトが生成されます。</p> <p><b>システムからの応答</b> [コンパイル エラー] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
6	<p>エラーが発生していないことを確認し、[OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。</p> <p><b>システムからの応答</b> トランスレーション オブジェクトをコンパイルした日付が、自動的に [トランスレーション オブジェクトの詳細] の [コンパイル日時] フィールドにロードされます。</p>
7	<p>[ファイル] メニューから [保存] を選択して、コンパイルした日付とともにソース マップを保存します。</p> <p><b>メモ</b> このトランスレーション オブジェクトを使用するには、まず Gentrans:Server システムに登録することが必要です。</p> <p><b>参照</b> トランスレーション オブジェクトの登録については、『Gentrans:Server ユーザー ガイド』を参照してください。</p>

( 次のページへ続く )



**システム インポート  
とインポート  
トランスレーション  
オブジェクトの  
テスト方法**

次の手順にしたがって、システムで提供されているシステム インポートとインポート トランスレーション オブジェクトをテストします。前の手順からのトランスレーション オブジェクトをテストするには、これらのトランスレーション オブジェクトが正常に機能していることが必要です。

ステップ	操作
1	Gentran:Server にトランスレーション オブジェクトを登録します。  <b>参照</b> トランスレーション オブジェクトの登録の詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』を参照してください。
2	SAP パートナー関係 (.PAR ファイル) をまだインポートしていない場合は、Gentran:Server にインポートします。  <b>参照</b> パートナーのインポートの詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』を参照してください。
3	パートナー エディタで、アウトバウンド関係に対してインポート トランスレーション オブジェクトが選択されていることを確認します。  <b>参照</b> アウトバウンド トランスレーション オブジェクトの選択の詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』を参照してください。
4	システム管理者に、システム構成プログラムにシステム インポート トランスレーション オブジェクトを追加するように依頼します。  <b>参照</b> システム管理者によるシステム構成プログラムの変更については、『Gentran:Server 管理 ガイド』を参照してください。  (次のページへ続く)

( 続き ) ステップ	操作
5	<p>Gentran:Server の [ インポート ] オプションを使用して、トランスレーション オブジェクトでデータ ファイル (.TXT ファイル) を処理します。</p> <p><b>参照</b> ファイルのインポートの詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
6	<p>トランスレーションされたドキュメントは、Gentran:Server のワークスペースに格納されます。EDI データを表示して、ドキュメントが正しくトランスレーションされていることを確認します。</p> <p><b>参照</b> 生 EDI データを表示する方法の詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』を参照してください。</p>

**メモ**

この他のシステムのテストに関する推奨事項については、このガイドの付録 B と付録 C を参照してください。

### トランスレーション オブジェクトの テスト方法

マップをコンパイルして、トランスレーション オブジェクトを Gentran:Server に登録したら、トランスレーション オブジェクトをテストします。このテストでは、Extensions ディレクトリのテスト データを使用できます。次のステップで使用するデータ ファイル (SAPMAPS3X または SAPMAPS40) は、Gentran:Server がインストールされている場所の SAPMaps サブディレクトリにあります。

次の手順にしたがって、作成したインバウンド (エクスポート) トランスレーション オブジェクトをテストします。

ステップ	操作
1	<p>Gentran:Server にトランスレーション オブジェクトを登録します。</p> <p><b>参照</b> トランスレーション オブジェクトの登録の詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
2	<p>SAP パートナー関係 (.PAR ファイル) をまだインポートしていない場合は、Gentran:Server にインポートします。</p> <p><b>参照</b> パートナーのインポートの詳細については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
3	<p>パートナー エディタで、インバウンド関係に対してエクスポート トランスレーション オブジェクトが選択されていることを確認し ます。</p> <p><b>参照</b> インバウンド トランスレーション オブジェクトの選択の詳細につ いては、『Gentran:Server ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
4	<p>Gentran:Server の [ ファイル処理 ] オプションを使用して、トラン スレーション オブジェクトでデータ ファイル (EDI ファイル) を 処理します。データ ファイルは、Gentran:Server がインストールさ れている場所の SAPMAPS3X または SAPMAPS40 サブディレクト リにあります</p>
5	<p>トランスレーションされたドキュメントは、Gentran:Server の [ イ ンドキュメント ] に置かれます。ドキュメントをエクスポートし て、トランスレーションが正しく実行されたことを確認します。</p> <p><b>参照</b> ファイルのエクスポートの詳細については、『Gentran:Server ユー ザー ガイド』を参照してください。</p>



---

# ALE を使用したドキュメントの転送

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ ALE モードでの処理 .....	3

---

## 概要

### はじめに

---

この章では、SAP を Windows および UNIX で実行し、ALE を使用してドキュメントを SAP と Gentran:Server の間で転送する方法について説明します。

---

## ALE モードでの処理

### はじめに

ALE (Application Linking and Enabling) ベースの IDoc 転送では、API (Application Program Interface) を通じて Extension for SAP R/3 プログラムの **aleserver** へ IDoc を転送できます。

#### メモ

ALE は、リモート コピー (rcp) や STARTRFC を使用した NFS/FTP に代わる方法です。

### 始める前に

ALE モードで処理を行うには、まず次の情報を設定することが必要です。

- ▶ SAP のポートの定義 — [SAP Port Setup] で設定します。
- ▶ RFC の定義 — [SAP Partner Profile] で設定します。
- ▶ 使用するメソッド (トランザクション RFC) — [Partner Profile] で設定します。画面 SM59 の **T** で指定されます。
- ▶ 処理中に [Transaction ID] テーブルを置く場所を指定します。この環境変数を設定するには、次のページの手順に従います。

#### 参照

ポートの定義、RFC の定義、およびトランザクション RFC 情報の設定の詳細については、SAP のマニュアルを参照してください。

(次のページへ続く)

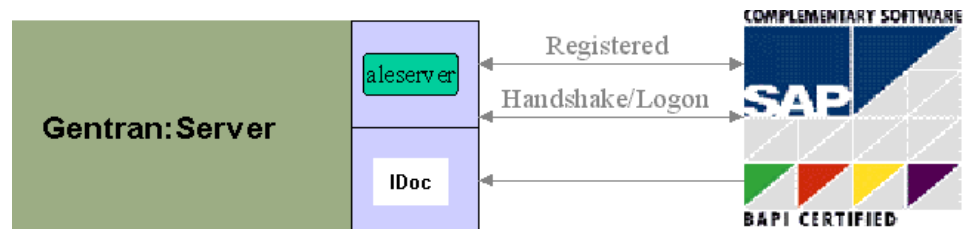
### [Transaction ID] テーブルの環境変数

ALE モードでの処理を行うには、まず処理中に [Transaction ID] テーブルを置く場所を指定する必要があります。次の手順に従って、Transaction ID 環境変数を設定します。

ステップ	操作
1	Windows のコントロールパネルで [システム] アイコンを選択します。  <b>システムからの応答</b> [システムのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[詳細] タブを選択します。
3	環境変数 TRFC_WORK_DIR を追加し、このディレクトリがある場所のパス名を入力します。  <b>メモ</b> このステップでは、ディレクトリがすでに作成されているものと仮定しています。

### ALE アウトバウンド 処理の図

次の図に、ALE ベースの環境におけるアウトバウンド処理を示します。

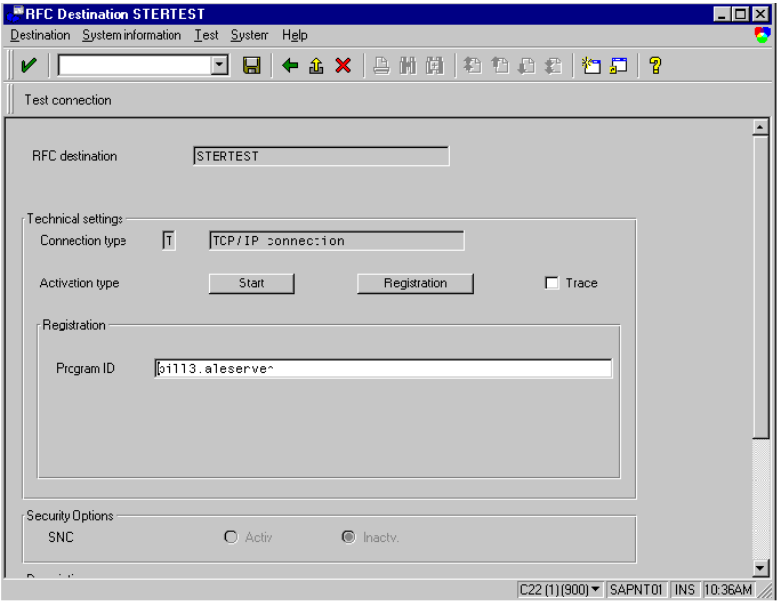


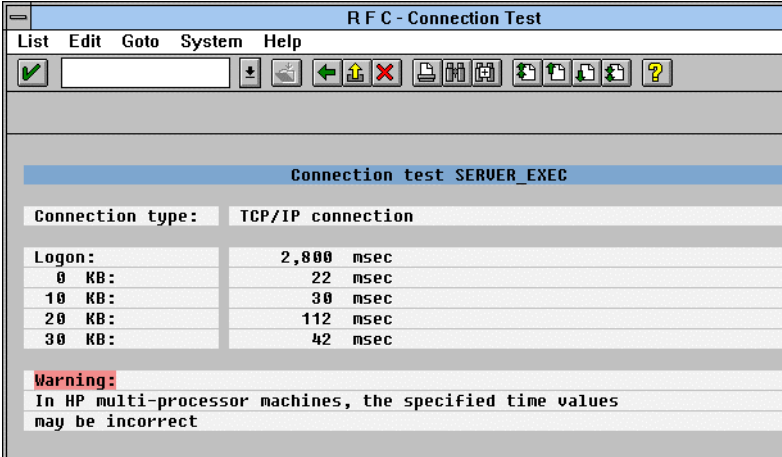
(次のページへ続く)



登録モードからの  
ALE での処理

登録モードを使用して、ALE 環境で処理を行うには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>SAP システムから画面 SM59* を開きます。</p>  <p><b>メモ</b> この画面は、[SAP RFC Destination] 画面とも呼ばれます。</p>
2	<p>次のものに対するゲートウェイを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ホスト</li> <li>▶ サービス</li> </ul> <p><b>メモ</b> トランザクション SM59 の送信先は次のように定義できます。</p> <p>Connection type:           <b>T</b>  Activate type:               <b>Registering</b>  Program-ID:                 <b>hssfds05.aleserver</b>  Gateway host:               <b>hssfds05</b>  Gateway service:           <b>sapgw00</b></p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
3	<p>Windows の [ ファイル名を指定して実行 ] のコマンド ラインにプログラム ID を入力します。</p> <p>program_ID パラメータのシンタックスは「&lt;machine_name&gt;.aleserver」です。machine_name は Gentran:Server がインストールされているコンピュータの名前です。このパラメータでは大文字と小文字が区別されます。</p> <p><b>コマンド書式</b>  <b>aleserver -a &lt;program_ID&gt; -g &lt;SAP_gateway&gt;</b>  <b>-x &lt;SAP_gateway_service&gt; file=&lt;file_name&gt;</b></p> <p>file_name は出力ファイルの名前 ( 通常、Gentran:Server システムのフォルダ内のファイル ) です。</p> <p><b>コマンドの例</b>  aleserver -ahssfds05.aleserver -ghssfds05 -xsapgw00  file=¥¥GENSRVNT¥¥from_sap¥sapout.idoc</p>
4	<p>画面 SM59 から [Registration] ボタンを選択し、Gentran:Server Extension for SAP R/3 が常駐するコンピュータで処理を開始します。</p> <p><b>システムからの応答</b>  次のように IP 名 (プログラム ID) が表示されます。  <b>hssfds05.aleserver</b></p>
5	<p>[Test*] 接続を選択します。</p>  <p><b>システムからの応答</b>  接続の情報を示す画面が表示されます。失敗した場合は、[unable to connect] というエラー メッセージが表示されます。</p>

\*Copyright 1997 by SAP AG.All Rights Reserved.

( 次のページへ続く )

### R/3 3.1G 以降での ALE ステータス メッセージ

ALE では、スタンダードの IDoc インターフェイスとは異なる方法でステータスメッセージが処理されます。EDI\_DS ステータスレコード (バージョン 4.0 では EDI\_DS40) の代わりに、ALE では IDoc タイプ SYSTAT01 が使用されます。この IDoc タイプはコントロールとデータレコードで構成され、ステータスレコードのセグメントが含まれています。ステータスメッセージを有効にするには、システムを ALE 処理を使用するように設定する必要があります。

この IDoc タイプの使用については、SAP のマニュアルを参照してください。コード STA1 を処理するには、パートナーのプロファイルが必要です。ポートタイプは FILE です。

### aleserver コマンド書式

次に、aleserver コマンドのシンタックスを示します。

```
aleserver -a <program_ID> -g <SAP_gateway> -x <SAP_gateway_service>
file=<file_name>
```

### aleserver の パラメータ

次の表に、aleserver コマンドで定義するパラメータをまとめます。aleserver コマンドでは STARTRFC パラメータを使用して、SAP システムへの接続と SAP からの IDoc の受信が行なわれます。

ユーティリティ パラメータ	フラグ	パラメータ (例)	説明	値
program ID	-a	gentranhost. aleserver	SAP に対してプログラム ID を識別します。	
sap_gateway	-g	hw1139	ゲートウェイサーバーを識別します。  <b>見つけ方</b> 1. SE38 を使用します。 2. レポート名「rsparam」を入力します。 3. [Execute] を選択します。 4. [System] > [List] > [Find String] を選択します。 5. 「rdisp/sna_g」と入力します。 6. 最初の行をクリックして、カーソルを配置します。 7. 「rdisp/sna_gateway」の行でゲートウェイサーバーを見つけます。右側にスクロールします。  (次のページへ続く)	

( 続き ) ユーティリティ パラメータ	フラグ	パラメータ ( 例 )	説明	値
sap_gateway_ service	-x	sapgw95	/etc/services1 のゲートウェイ サービスを識別します。  <b>見つけ方</b> 1. SE38 を使用します。 2. レポート名「 <b>rsparam</b> 」を入 力します。 3. [Execute] を選択します。 4. [System] > [List] > [Find String] を選択します。 5. 「 <b>rdisp/sna_g</b> 」と入力します。 6. 最初の行をクリックして、 カーソルを配置します。 7. 「 <b>rdisp_gw_service</b> 」の行で ゲートウェイサーバーを見つ けます。右側にスクロールし ます。	
trace ( オプション )	-t	該当なし	RFC エラーを含む <i>dev_rfc</i> ファ イルを作成します。	
file			完全修飾された UNC 出力ファ イル名です。	

### aleclient コマンド

**aleclient** コマンドは、インバウンド情報の処理に使用します。

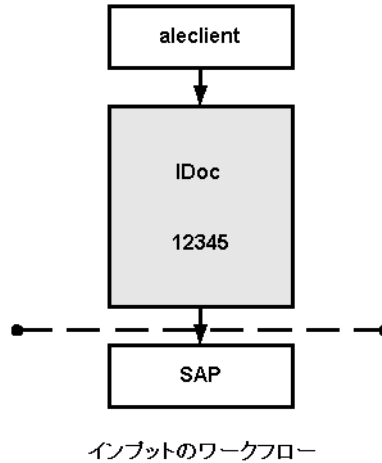
#### メモ

インバウンドとは、Gentran から SAP に送信されたデータのことです。

( 次のページへ続く )

## aleclient の図

次の図に、aleclient プログラムを使用したインバウンド処理を示します。

aleclient の  
パラメータ

次の表に、aleclient コマンドで定義するパラメータをまとめます。aleclient プログラムでは **STARTRFC** パラメータを使用して、SAP システムへの接続と SAP への IDoc の受信が行なわれます。

ユーティリティ パラメータ	フラグ	パラメータ (例)	説明	値
client	-c	040	EDI_DC または EDI_DC40 のコントロールレコードの [MANDT] フィールドに含まれる SAP システム クライアントを識別します。  <b>既定値</b> 000	
host	-h	hw1138	アプリケーション サーバーを識別します。アンダースコアで区切られているフィールドの最初の部分は、アプリケーション サーバーを示します。  <b>推奨事項</b> SM51 を使用します。	
userid	-u	random-j	SAP システムのユーザー ID を識別します。  (次のページへ続く)	

( 続き ) ユーティリティ パラメータ	フラグ	パラメータ ( 例 )	説明	値
userpw	-p	sapuser	ユーザー ID のパスワードを識別します。	
sap_gateway	-g	hwll39	ゲートウェイ サーバーを識別します。 <b>見つけ方</b> 1. SE38 を使用します。 2. レポート名「 <b>rsparam</b> 」を入力します。 3. [Execute] を選択します。 4. [System] > [List] > [Find String] を選択します。 5. 「 <i>rdisp/sna_g</i> 」と入力します。 6. 最初の行をクリックして、カーソルを配置します。 7. 「 <i>rdisp/sna_gateway</i> 」の行でゲートウェイ サーバーを見つけます。右側にスクロールします。	
trace ( オプション )	-t	該当なし	RFC エラーを含む <i>dev_rfc</i> ファイルを作成します。	
sap_gateway_ service	-x	sapgw95	/etc./services1 のゲートウェイ サービスを識別します。 <b>見つけ方</b> 1. SE38 を使用します。 2. レポート名「 <b>rsparam</b> 」を入力します。 3. [Execute] を選択します。 4. [System] > [List] > [Find String] を選択します。 5. 「 <i>rdisp/sna_g</i> 」と入力します。 6. 最初の行をクリックして、カーソルを配置します。 7. 「 <i>rdisp_gw_service</i> 」の行でゲートウェイ サーバーを見つけます。右側にスクロールします。	

( 次のページへ続く )

**共有 RFC  
ライブラリ**

---

共有 RFC ライブラリ (DLL) librfc32.dll は、SAP グラフィカル ユーザー インターフェイスに付属しており、STARTRFC プログラムとともにのみ使用されます。

---





---

# サポートされている SAP ステータス コード

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ ステータス コード .....	3

---

## 概要

### はじめに

---

この章では、SAP で作成された IDoc のアウトバウンド処理中に、Extension for SAP R/3 で使用される SAP R/3 ステータス コードについて説明します。

---

## ステータス コード

### ステータス コード の表

次の表に、IDoc のアウトバウンド処理中に、Extension for SAP R/3 で使用される SAP R/3 ステータス コードをまとめます。Extension for SAP R/3 では、各 IDoc に対し、次にあげるステータスが 1 つ以上作成されます。

SAP ステータス / 説明	SAP に返される説明
04 Error within control information	Trading partner not found
24 Control information OK	Trading partner found and translator started
05 Translation Error	No EDI data created.Missing or inaccessible tpcode or map.
06 Translation OK	Translation OK.EDI data created.
07 Syntax Error	Error message from translator if available.  Syntax errors.No EDI data created (default text).
08 Syntax check OK	Compliance check OK
10 Interchange Handling OK	Interchange Handling OK
12 Transmission OK Acknowledgement Due	Transmission OK.
22 Transmission OK Acknowledgement Due	Transmission OK — Acknowledgement Due.
14 Interchange Acknowledgement Positive	Interchange Acknowledgement OK.  (次のページへ続く)

<b>( 続き )</b> <b>SAP ステータス / 説明</b>	<b>SAP に返される説明</b>
15 Interchange Acknowledgement Negative	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ Interchange Acknowledgement with Errors.</li><li>▶ Interchange Acknowledgement Partial.</li><li>▶ Interchange Acknowledgement Rejected.</li></ul>
16 Functional Acknowledgement Positive	Functional Acknowledgement OK.
17 Functional Acknowledgement Negative	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ Functional Acknowledgement with Errors.</li><li>▶ Functional Acknowledgement Partial.</li><li>▶ Functional Acknowledgement Rejected.</li></ul>

---

---

# Windows における SAP システムの セットアップの推奨事項

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ サンプル インバウンド処理のセットアップ .....	3
▶ サンプル アウトバウンド処理のセットアップ .....	5
▶ サンプル更新処理のセットアップ .....	6
▶ サンプル抽出処理のセットアップ .....	7
▶ Gentran:Server プロセス管理の記述 .....	8

---

## 概要

### はじめに

---

この付録では、Windows で Extension for SAP R/3 を使用するユーザーのために、セットアップの例を紹介し、インバウンド、アウトバウンド、および更新 / 抽出のモードについて説明します。

#### 参照

SAP を UNIX のホストで使用する場合は、付録 C 「Unix ホストにおける SAP システムのセットアップの推奨事項」を参照してください。

### サンプルセッション

---

Extension for SAP R/3 とともにインストールされ、この付録で説明するサンプルセッションを [プロセス管理] ダイアログ ボックスに表示するには、自動処理フォルダにコピーする必要があります。

#### 参照

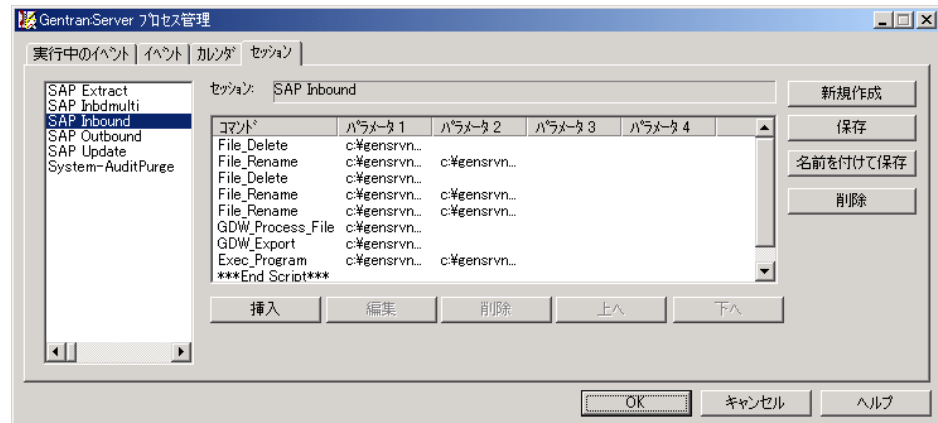
プロセス管理の使用方法については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「プロセス管理の使い方」のセクションを参照してください。

---

## サンプル インバウンド処理のセットアップ

### インバウンド セッションの開始

インバウンド セッションをセットアップするには、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスで、[セッション] タブ、次に [SAP Inbound] を選択します。



### インバウンド 処理の表

次の表に、Extension for SAP R/3 のインバウンド処理をまとめます。

段階	説明
1	前回のインバウンド イベントの処理で作成されたバックアップファイル (ファイル拡張子 .BAK) を削除します。
2	.SAP から .BAK に処理された最後のファイルの名前を変更して、新しいバックアップ ファイルを作成します。
3	受信ファイルの名前を .DAT から .SAP に変更します。  <b>メモ</b> この名前の変更は、処理が .DAT 拡張子によって起動されるようにセットアップされているために必要になります。名前を変更することで、同じファイルが繰り返し処理されるのを防ぐことができます。
4	受信ファイルをイン ボックスに入れ、GDW_Process_File コマンドを使用したトランスレーションで検出されるようにします。  (次のページへ続く)

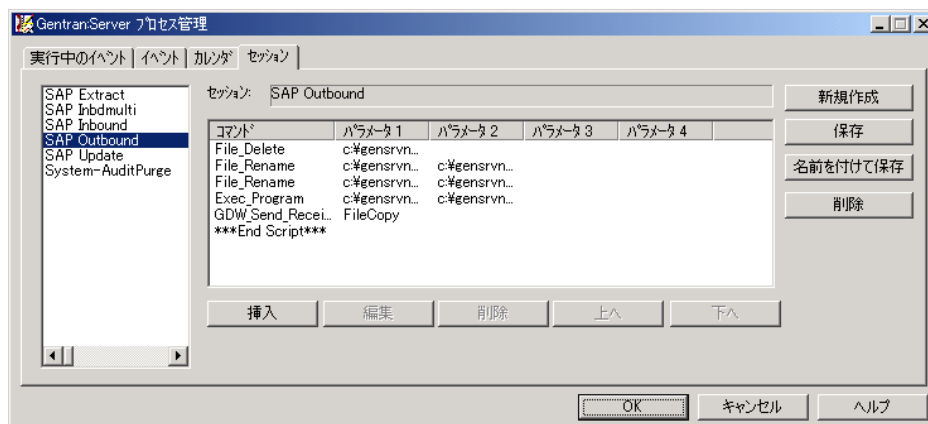
( 続き ) 段階	説明
5	<p>エクスポートを実行します。この機能ではインボックス内のファイルが検出され、GDW_Export コマンドを使用して IDoc ファイル (ファイル拡張子 .INB) にトランスレーションされます。</p>
6	<p>(オプション) 後処理の機能を実行し、インバウンド IDoc の MANDT と SNDPOR フィールドを更新します (これらのフィールドをマップしない場合)。これらのフィールドはマルチポート処理で必要になります。</p> <p><b>メモ</b> このステップはマルチポート処理では必須ですが、その他の場合はオプションです。</p>
7	<p>(オプション) sapsplit.exe プログラムを実行します。このプログラムではインバウンド IDoc がトランスレーション後に分割され、複数の SAP インスタンスがある環境で適切なルーティングができるようになります。次の SAP EDI_DC フィールドおよびその組み合わせに基づいて、ルーティングを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ sndprn</li> <li>▶ rcvprn</li> <li>▶ sndprt</li> <li>▶ scvprt</li> <li>▶ sndpor</li> <li>▶ rcvpor</li> <li>▶ doctyp</li> <li>▶ mandt</li> <li>▶ rcvprt、rcvprn</li> <li>▶ sndprt、sndprt</li> <li>▶ mandt、sndpor</li> <li>▶ mandt、rcvpor</li> </ul>
8	<p>エクステンション (SAPINT.EXE) を呼び出して、STARTRFC を実行し、IDoc ファイルを SAP に送信します。STARTRFC では .INB ファイルが削除されます。</p> <p><b>参照</b> プロセス管理セッションのセットアップの詳細については、『Gentran:Server for Windows 管理ガイド』の付録 C を参照してください。</p>



## サンプル アウトバウンド処理のセットアップ

### アウトバウンドセッションの開始

アウトバウンド セッションをセットアップするには、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスで、[セッション] タブ、次に [SAP Outbound] を選択します。



### アウトバウンド処理の表

次の表に、Extension for SAP R/3 のアウトバウンド処理をまとめます。

段階	説明
1	前回のアウトバウンド イベントの処理で作成されたバックアップファイル (ファイル拡張子 .BAK) を削除します。
2	.SAP から .BAK に処理された最後のファイルの名前を変更して、新しいバックアップ ファイルを作成します。
3	送信ファイルの名前を .DAT から .SAP に変更します。  <b>メモ</b> この名前の変更は、処理が .SAP 拡張子によって起動されるようにセットアップされているために必要になります。名前を変更することで、同じファイルが繰り返し処理されるのを防ぐことができます。
4	エクステンション (SAPINT.EXE) を呼び出し、アウトバウンド IDoc ファイル (ファイル拡張子 .SAP) を EDI にトランスレーションします。
5	GDW_Send_Receive コマンドを使用して、アウトバウンド EDI インターチェンジをパッケージ化し、送信します。

## サンプル更新処理のセットアップ

### はじめに

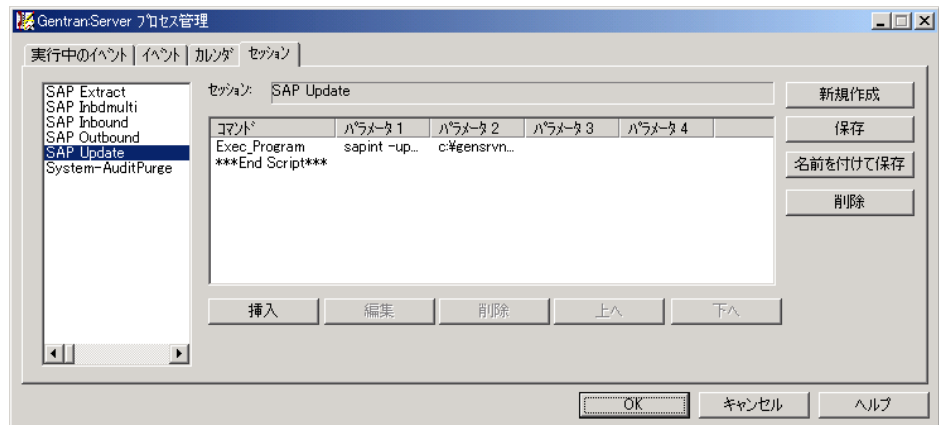
更新モードでは、Extension for SAP R/3 によって新しいステータス情報が追加され、SAP に送信されます。

### 処理のセットアップ方法

更新処理は、月曜日から金曜日まで、午前 7 時から午後 5 時までの毎時に実行されるようにセットアップされています。

### 更新 / 抽出セッションの開始

更新セッションをセットアップするには、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスで、[セッション] タブ、次に [SAP Update] を選択します。



### 更新処理の表

次の表に、Extension for SAP R/3 の更新処理をまとめます。

段階	説明
1	SAPINT.EXE を呼び出し、Exec_Program コマンドを使用して [SAP Status] データベース テーブルを更新します。
2	SAPINT.EXE を呼び出して、データベース テーブル内のすべてのステータスを抽出し、Exec_Program コマンドを使用して SAP に送信します。

## サンプル抽出処理のセットアップ

### はじめに

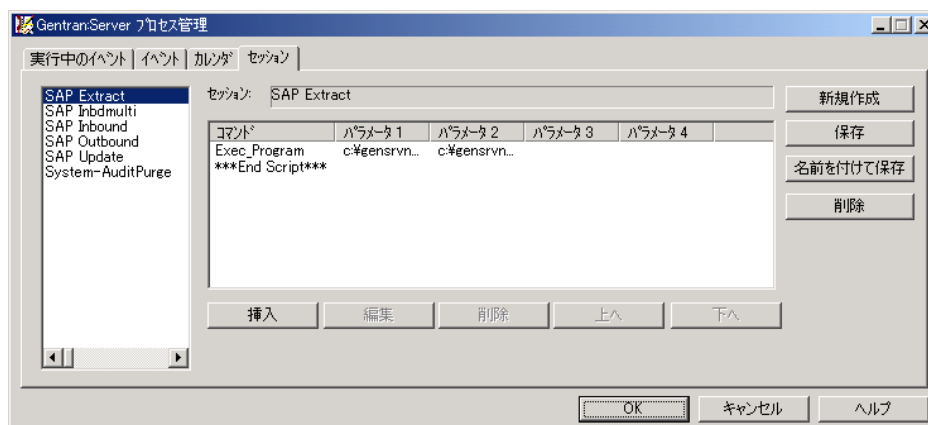
抽出モードでは、Extension for SAP R/3 によって新しいステータス情報が追加され、SAP に送信されます。

### 処理のセットアップ方法

抽出処理は、月曜日から金曜日まで、午前 7 時から午後 5 時までの毎時に実行されるようにセットアップされています。

### 抽出セッションの開始

抽出セッションをセットアップするには、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスで、[セッション] タブ、次に [SAP Extract] を選択します。



### 抽出処理の表

次の表に、Extension for SAP R/3 の抽出処理をまとめます。

段階	説明
1	SAPINT.EXE を呼び出し、Exec_Program コマンドを使用して [SAP Status] データベース テーブルを更新します。
2	SAPINT.EXE を呼び出して、データベース テーブル内のすべてのステータスを抽出し、Exec_Program コマンドを使用して SAP に送信します。

## Gentran:Server プロセス管理の記述

### はじめに

イベントのリストを表示するには、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログボックスの [ イベント ] タブを選択します。

[ 説明 ] リストには次のイベント タイプが含まれています。

- ▶ インバウンド
- ▶ アウトバウンド
- ▶ 更新
- ▶ 抽出

#### 参照

イベントの詳細については、『Gentran:Server for Windows 管理 ガイド』の付録 C を参照してください。

#### メモ

これらのイベントを使用するには、セットアップする必要があります。

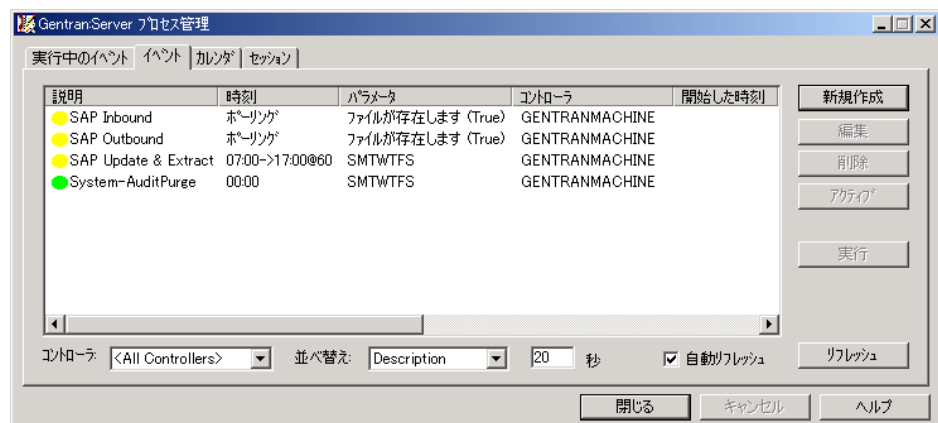
### 処理のセットアップ方法

インバウンドとアウトバウンドの処理は、処理するファイルがある場合に実行されるようにセットアップされています。

更新 / 抽出処理は、月曜日から金曜日まで、午前 7 時から午後 5 時までの毎時に実行されるようにセットアップされています。

### [ イベント ] タブのサンプル

次の図は、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログボックスの [ イベント ] タブのサンプルです。



---

# UNIX ホスト における SAP システムの セットアップの推奨事項

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ サンプル インバウンド処理のセットアップ .....	3
▶ サンプル アウトバウンド処理のセットアップ .....	5
▶ サンプル更新処理のセットアップ .....	6
▶ サンプル抽出処理のセットアップ .....	8
▶ Gentran:Server プロセス管理 .....	11

---

## 概要

### はじめに

---

この付録では、UNIX ホストで Extension for SAP R/3 を使用するユーザーのために、セットアップの例を紹介し、インバウンド、アウトバウンド、および更新/抽出のモードについて説明します。

#### 参照

Windows で SAP を使用する場合は、付録 B 「Windows における SAP システムのセットアップの推奨事項」を参照してください。

### サンプルセッション

---

Extension for SAP R/3 とともにインストールされ、この付録で説明するサンプルセッションを [プロセス管理] ダイアログ ボックスに表示するには、自動処理フォルダにコピーする必要があります。

#### 参照

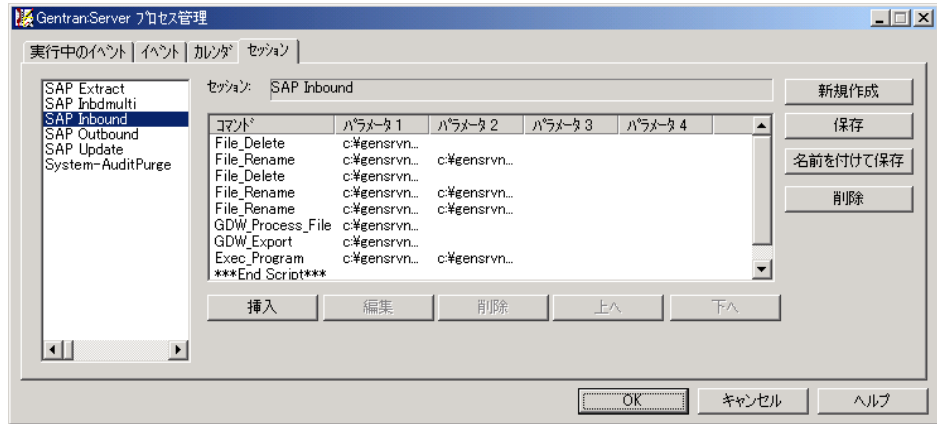
プロセス管理の使用方法については、『Gentran:Server ユーザー ガイド』の「プロセス管理の使い方」のセクションを参照してください。

---

# サンプル インバウンド処理のセットアップ

## インバウンドセッションの開始

インバウンド セッションをセットアップするには、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスで、[セッション] タブ、次に [SAP Inbound] を選択します。



## インバウンド処理の表

次の表に、Extension for SAP R/3 のインバウンド処理をまとめます。

段階	説明
1	前回のインバウンド イベントの処理で作成されたバックアップファイル (ファイル拡張子 .BAK) を削除します。
2	.SAP から .BAK に処理された最後のファイルの名前を変更して、新しいバックアップファイルを作成します。
3	受信ファイルをイン ボックスに入れ、GDW_Process_File コマンドを使用したトランスレーションで使用できるようにします。
4	エクスポートを実行します。この機能ではイン ボックス内のファイルが検出され、GDW_Export コマンドを使用して IDoc ファイル (ファイル拡張子 .INB) にトランスレーションされます。

(次のページへ続く)

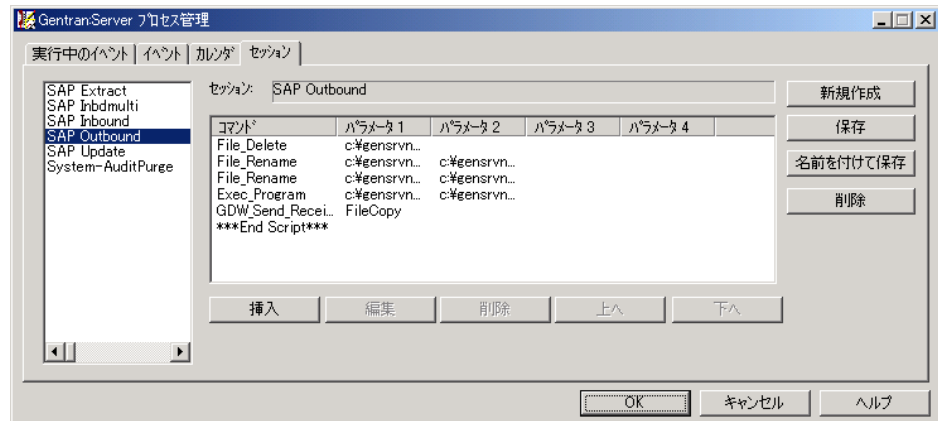
( 続き ) 段階	説明
5	<p>( オプション ) sapsplit.exe プログラムを実行します。このプログラムではインバウンド IDoc がトランスレーション後に分割され、複数の SAP インスタンスがある環境で適切なルーティングができるようになります。次の SAP EDI_DC フィールドおよびその組み合わせに基づいて、ルーティングを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ sndprn</li> <li>▶ rcvprn</li> <li>▶ sndprt</li> <li>▶ scvprt</li> <li>▶ sndpor</li> <li>▶ rcvpor</li> <li>▶ doctyp</li> <li>▶ mandt</li> <li>▶ rcvprt、rcvprn</li> <li>▶ sndprt、sndprt</li> <li>▶ mandt、sndpor</li> <li>▶ mandt、rcvpor</li> </ul>
6	<p>FTP によって .INB ファイルがリモートの SAP ホストに送信されます。</p> <p><b>スクリプト ファイルの例</b></p> <pre>open &lt;unix machine&gt; user &lt;User ID&gt; &lt;Password&gt; cd /SAP/IDocS send C:\GENSRVNT\IDocS\SAPIDoc.INB close quit</pre>
7	<p>Extension for SAP R/3 (SAPINT.EXE) を呼び出して、STARTRFC を実行し、IDoc ファイルを SAP に送信します。STARTRFC では .INB ファイルが削除されます。</p> <p><b>参照</b> プロセス管理セッションのセットアップの詳細については、『Gentran:Server for Windows 管理 ガイド』の付録 C を参照してください。</p>



## サンプル アウトバウンド処理のセットアップ

### アウトバウンドセッションの開始

アウトバウンド セッションをセットアップするには、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスで、[セッション] タブ、次に [SAP Outbound] を選択します。



### アウトバウンド処理の表

次の表に、システムのアウトバウンド処理をまとめます。

段階	説明
1	前回のアウトバウンド イベントの処理で作成されたバックアップファイル (ファイル拡張子 .BAK) を削除します。
2	.SAP から .BAK に処理された最後のファイルの名前を変更して、新しいバックアップファイルを作成します。
3	送信ファイルの名前を .DAT から .SAP に変更します。 <b>メモ</b> この名前の変更は、処理が .SAP 拡張子によって起動されるようにセットアップされているために必要になります。名前を変更することで、同じファイルが繰り返し処理されるのを防ぐことができます。
4	Extension for SAP R/3 (SAPINT.EXE) を呼び出し、アウトバウンド IDoc ファイル (ファイル拡張子 .SAP) を EDI にトランスレーションします。
5	GDW_Send_Receive コマンドを使用して、アウトバウンド EDI インターチェンジをパッケージ化し、送信します。

## サンプル更新処理のセットアップ

### はじめに

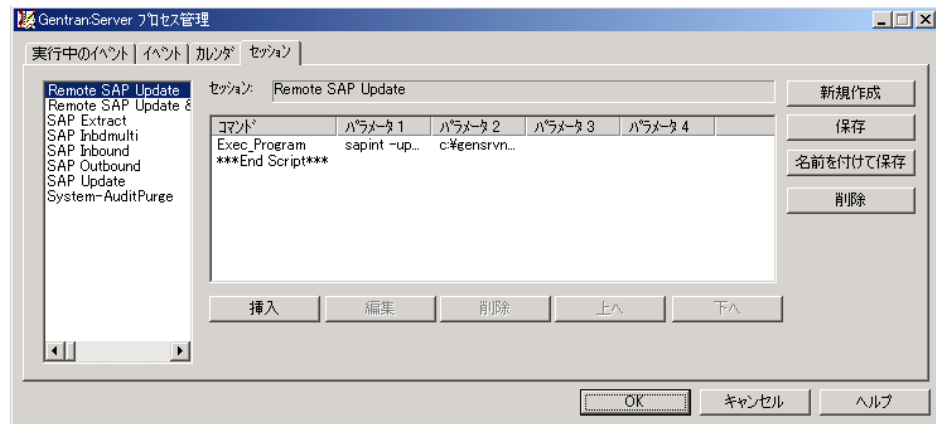
更新モードでは、Extension for SAP R/3 によって新しいステータス情報が追加され、SAP に送信されます。

### 処理のセットアップ方法

更新処理は、月曜日から金曜日まで、午前 7 時から午後 5 時までの毎時に実行されるようにセットアップされています。

### 更新セッションの開始

更新セッションをセットアップするには、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログボックスで、[セッション] タブ、次に [Remote SAP Update] を選択します。



(次のページへ続く)

## 更新処理の表

次の表に、Extension for SAP R/3 の更新処理をまとめます。

段階	説明
1	SAPINT.EXE を呼び出し、Exec_Program コマンドを使用して [SAP Status] データベース テーブルを更新します。
2	<b>FTP スクリプトの例</b>  <pre>open &lt;unix_machine&gt; user &lt;user_ID&gt; &lt;password&gt; cd /SAP/STATUS send C:\GENSRVNT\SAPSTAT\SAPSTAT.DAT close quit</pre> <b>メモ</b> 2 番目の [Remote Command] フィールドには、STARTRFC で使用するリモートのパスとファイル名が含まれています。  <b>注意</b> ALE を使用する場合は、[Remote Host] の構成は必要ありません。 [Remote Host] は STARTRFC を使用する場合にのみ構成します。
3	処理が完了すると、ステータスのフラット ファイルが削除されます。

## サンプル抽出処理のセットアップ

### はじめに

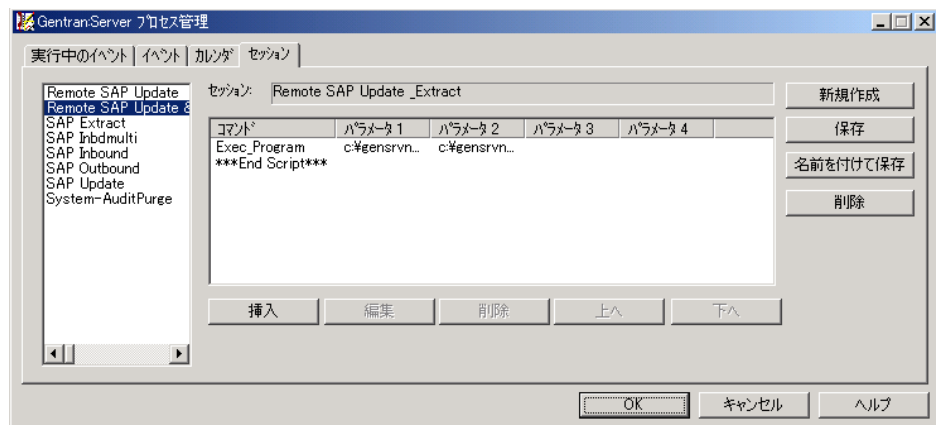
抽出モードでは、Extension for SAP R/3 によって新しいステータス情報が追加され、SAP に送信されます。

### 処理のセットアップ方法

抽出処理は、月曜日から金曜日まで、午前 7 時から午後 5 時までの毎時に実行されるようにセットアップされています。

### 抽出セッションの開始

抽出セッションをセットアップするには、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスで、[セッション] タブ、次に [Remote SAP Update & Extract] を選択します。



(次のページへ続く)

**抽出処理の表**

次の表に、Extension for SAP R/3 の抽出処理をまとめます。

段階	説明
1	前回のステータス ファイルを削除します。
2	<p>SAPINT.EXE を呼び出して、データベース テーブル内のすべてのステータスを抽出し、Exec_Program コマンドを使用して SAP に送信します。</p> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Execute プログラムの条件と Exec_Program コマンドの作業ディレクトリを指定する際には、UNC ファイルパスではなく、ローカルドライブのパスを指定してください。</li> <li>▶ 抽出関数でリモートの SAP ホストに対してこのタスクを実行するには、ほかの構成情報が必要です。必要な情報は <b>[SAP Configuration]</b> ダイアログ ボックスの <b>[システム]</b> タブにあります。処理が完了すると、STARTRFC プログラムによってステータスのフラット ファイルが削除されます。</li> </ul> <p><b>参照</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Exec_Program コマンドの使用方法については、『ユーザー ガイド』の「プロセス管理の使い方」のセクションを参照してください。</li> <li>▶ 抽出モードでの処理の詳細については、このマニュアルの第 3 章にある「Extract 関数」のセクションを参照してください。</li> </ul>
3	<p>SAPINT.EXE の Extract 関数を使用して、自動的に STARTRFC を実行します。リモートの SAP ホストに対してこのタスクを実行するには、ほかの構成情報が必要です。必要な情報は、<b>[SAP Configuration]</b> ダイアログ ボックスの <b>[RFC Parameters]</b> タブからアクセスできる、<b>[Advanced Multi-Port Features]</b> ダイアログ ボックスに含まれています。</p> <p><b>ユーザーの操作</b></p> <p>Windows NT のファイルを最初の <b>[Remote Command]</b> フィールドにある SAP ホストに送信するには、<b>[Remote SAP Host]</b> チェックボックスを選択して、FTP の名前を入力します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) 段階	説明
4	<p><b>FTP スクリプトの例</b></p> <pre>open &lt;unix_machine&gt; user &lt;user_ID&gt; &lt;password&gt; cd /SAP/STATUS send C:\GENSRVNT\SAPSTAT\SAPSTAT.DAT close quit</pre> <p><b>メモ</b> 2 番目の [Remote Command] フィールドには、STARTRFC で使用するリモートのパスとファイル名が含まれています。</p> <p><b>注意</b> ALE を使用する場合は、[Remote Host] の構成は必要ありません。 [Remote Host] は STARTRFC を使用する場合にのみ構成します。</p>
5	処理が完了すると、ステータスのフラット ファイルが削除されます。

## Gentran:Server プロセス管理

### はじめに

イベントのリストを表示するには、[**Gentran:Server プロセス管理**] ダイアログボックスの [ イベント ] タブを選択します。

[ 説明 ] リストには次のイベント タイプが含まれています。

- ▶ インバウンド
- ▶ アウトバウンド
- ▶ Update
- ▶ 抽出

#### 参照

イベントの詳細については、『Gentran:Server for Windows 管理 ガイド』の付録 C を参照してください。

#### メモ

これらのイベントを使用するには、セットアップする必要があります。

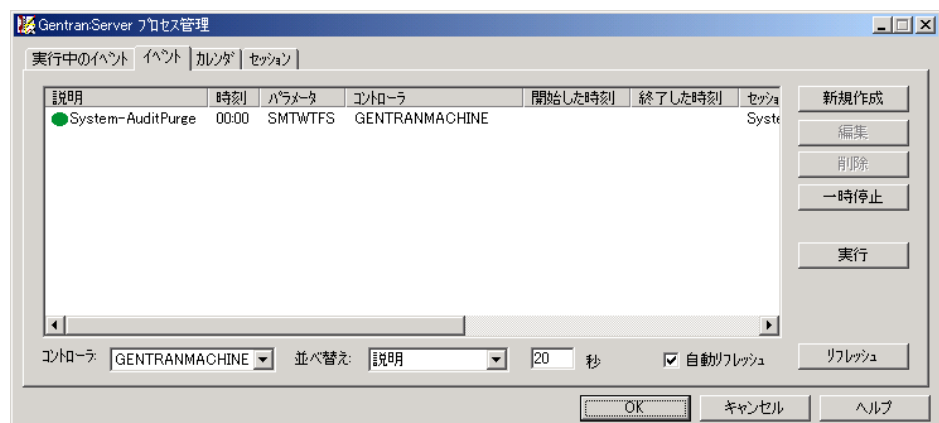
### 処理のセットアップ方法

インバウンドとアウトバウンドの処理は、処理するファイルがある場合に実行されるようにセットアップされています。

更新 / 抽出処理は、月曜日から金曜日まで、午前 7 時から午後 5 時までの毎時に実行されるようにセットアップされています。

### [ イベント ] タブのサンプル

次の図は、[**Gentran:Server プロセス管理**] ダイアログボックスの [ イベント ] タブのサンプルです。







---

# マルチポート処理

目次

---

▶ 概要 .....	2
------------	---

---

## 概要

### はじめに

---

Extension for SAP R/3 は、RFC テーブルを介して、マルチポートに対応しています。

### 始める前に

---

マルチポート処理を使用するには、次のものがが必要です。

- ▶ 一意のポート番号を使用した SAP のセットアップ。
- ▶ 各クライアント / ポートに対し、接続名が一意であることを確認する。
- ▶ アウトバウンドのステータス メッセージが、PORT 属性をもつ Extract モードを使用することが必要。

### ディレクトリ名の パラメータ

---

ディレクトリ名のパラメータ (c:\GENSRVNT\sapin など) はポートごとに異なる必要があります。インバウンド処理では、パス名が重要な値となります。

### アウトバウンド ステータス メッセージ

---

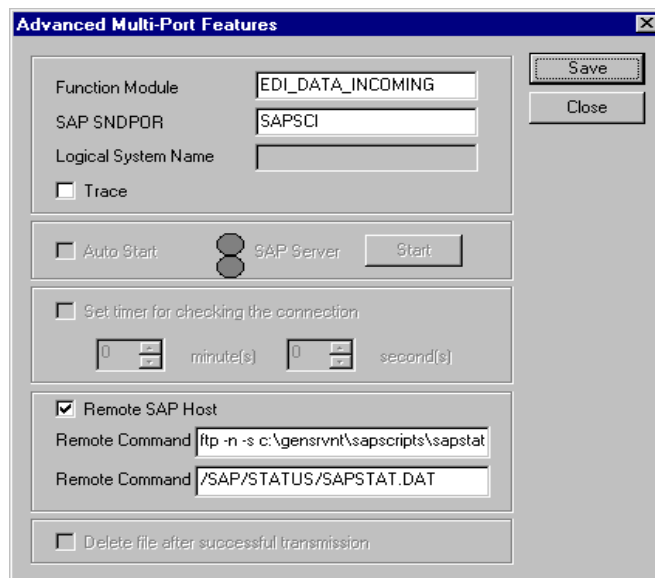
アウトバウンドのステータス メッセージを処理するには、クライアントとポートが一意であることが必要です。

---

(次のページへ続く)

**[Advanced Multi-Port Features]  
ダイアログボックス**

Extension for SAP R/3 は、[SAP Configuration] ダイアログボックスの [Connection Parameters] タブからアクセスできる [Advanced Multi-Port Features] ダイアログボックスを使用して、マルチポート処理に対応することができます。次の図に、[Advanced Multi-Port Features] ダイアログボックスを示します。





---

# IDoc ユーティリティの使用

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ IDoc ユーティリティのインストールと構成 .....	4
▶ IDoc ユーティリティの実行 .....	6

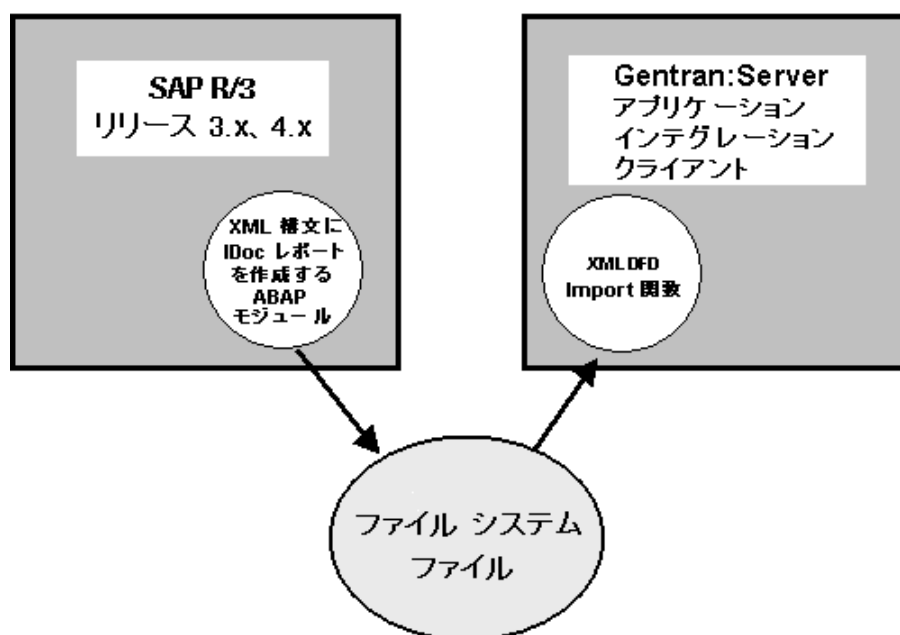
---

## 概要

### はじめに

IDoc ユーティリティとは、プログラムのように実行することのできる、SAP システム内のレポートです。このユーティリティでは、`gentran_ddf.dtd` ファイルのバージョン 1.0 のルールに基づいて、IDoc の構造が XML 形式に変換されます。その後、XML 形式 Gentran アプリケーション インテグレーション プログラムにロードして、マップの片側が IDoc の部分を自動的に提供できます。これにより、ユーザーがこの情報を手作業で再入力する必要がなくなります。

この機能の全体的な環境は次のようになります。



### レポート名

IDoc ユーティリティには、SAP リリースの各種類に対して 1 つずつ、2 つのバージョンがあります。次の表は、レポートとも呼ばれるこれらの 2 つのバージョンを示しています。

レポート名	実行対象
ZIDXML3X	SAP Systems R/3 Rel.3.x.
ZIDXML4X	SAP Systems R/3 Rel.4.0x と 4.5x

(次のページへ続く)

## SAP システムの ヘルプ機能

---

IDoc ユーティリティには、次のオンライン ヘルプが付属しています。

- ▶ レポートのマニュアルを表示するには、[Help/Extended help] のメニューパスに従います。
  - ▶ [Selection] 画面では、カーソルをフィールドに置き、**F1** キーを押すとフィールドの説明が表示されます。
  - ▶ [Selection] 画面の [Object name] ボックスと [Local directory] ボックスでは、ボックスの上にカーソルを置いて **F4** キーを押すと、選択可能なエントリのリストが表示されます。
-

## IDoc ユーティリティのインストールと構成

### 要件

IDoc ユーティリティをインストールおよび実行するには、次のものがが必要です。

- ▶ SAP System R/3 リリース 3.xx、4.0x、または 4.5x
- ▶ 適切なオペレーティング システム

#### 参照

Gentran:Server で使用できるオペレーティング システムについては、『インストール準備 カード』を参照してください。

- ▶ ユーティリティ レポートを含むインポートしたトランスポート
- ▶ 関連するクライアントのための SAP ユーザー タイプ「dialog」。このユーザーは、少なくともレポートの送信を承認する承認オブジェクト S\_PROGRAM を含むプロファイルと、IDoc ドキュメントの表示を承認する S\_IDocDEFT をもつ必要があります。

### IDoc ユーティリティのレポート名の概要

Gentran:Server アプリケーション インテグレーション サブシステムへのインポートに必要な IDoc レイアウトを生成するためのファイルは、`¥GENSRVNT¥Extensions¥SAPxxxxxx¥XML iDoc Export¥Cofiles¥` ディレクトリと `¥GENSRVNT¥Extensions¥SAPxxxxxx¥XML iDoc Export¥Data¥` ディレクトリにあります。

ZIDXML4X:K900051.c22 と R900051.c22 は SAP リリース 4.x 用です。  
ZIDXML3X:K900052.c22 と R900052.c22 は SAP リリース 3.x 用です。

上記のファイルは、「**Transport Change Requests**」と呼ばれます。これらのファイルの目的は、ABAP/4 レポート プログラムである ZIDXML4X または ZIDXML3X を SAP システムにインポートすることにあります。ソース コードはインポートされますが、プログラムをコンパイルする必要があります。ABAP/4 コードをインポートするには、**tp** という SAP で提供されているユーティリティを使用します。

#### 参照

このユーティリティを、特定の SAP のバージョンや構成で使用方法については、該当する SAP のマニュアルを参照してください。または、Basis のコンサルタントに相談してください。

ABAP/4 コードをインポートしたら、オブジェクトに ABAP/4 プログラムのソースが含まれる場合、ソースをコンパイルして、SAP の内部から実行する必要があります。

#### 参照

この機能の詳細については、システム管理者または開発者に問い合わせてください。

(次のページへ続く)



**処理の概要**

次の表に、IDoc ユーティリティの使用手順をまとめます。

段階	説明
1	トランスポート ファイルから ZIDXML3X レポート、または ZIDXML4X レポートをインストールします。(このステップを実行するには、SAP システムの管理者のサポートが必要です。)
2	SAP ユーザーをセットアップします。 <b>参照</b> SAP ユーザーのセットアップについては、このトピックの「要件」のセクションを参照してください。
3	SAP クライアントを使用してログオンします。
4	レポートを実行し、XML ファイルを作成します。
5	作成したファイルを Gentran アプリケーション インテグレーション プログラムにロードします。

## IDoc ユーティリティの実行

### 手順

IDoc ユーティリティを実行するには、次の手順に従います。

ステップ	説明
1	SAP システムで、SAP トランザクション SA38 を使用して、レポートの 1 つ (ZIDXML3X または ZIDXML4X) を実行します。  <b>メモ</b> このトランザクションへは、[System/Services/Reporting] を選択するか、画面のコマンド フィールドにトランザクション コード「SA38」を入力してアクセスすることができます。
2	画面にレポートの名前 (ZIDXML3X または ZIDXML4X) を入力して、F8 を押します。  <b>結果</b> プログラムの [Selection] 画面が表示されます。
3	すべての必須事項と、該当するオプションの事項を入力します。  <b>参照</b> この章の最後にある「サンプル画面とエントリの説明」のセクションの該当する部分を参照してください。
4	F8 を押してレポートを実行します。  <b>メモ</b> バックグラウンド モードでは必要なダウンロード機能を使用できないため、レポートはオンライン モードで実行する必要があります。

### ファイル名

各 IDoc 構造には、次の必須コンポーネントが含まれています。

- Controlrecord (EDI\_DC / EDI\_DC40)
- Datarecord (EDI\_DD / EDI\_DD40)
- IDoctype (例 : ORDERS02)

実行が終了すると、選択した IDoc のタイプが、ローカルワークステーションの指定したディレクトリに転送されます。既定のディレクトリは、現在の SAP の作業ディレクトリです。

(次のページへ続く)

## ファイル名 (続き)

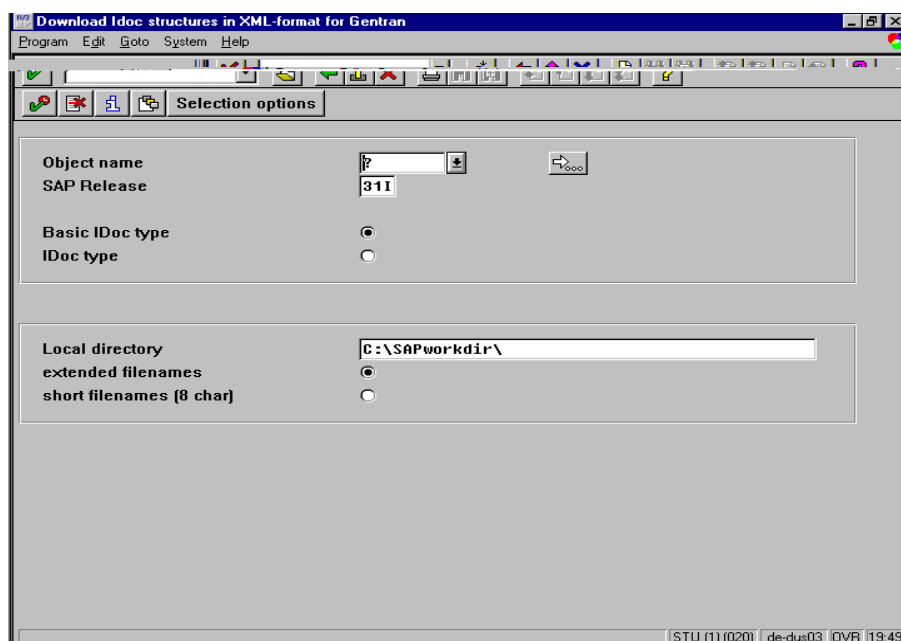
IDoc を複数選択した場合、各構造に対しファイルが 1 つずつ生成されます。生成されるファイル名は次のとおりです。

ファイル名	説明
<IDoctype>_<release>.ddf	リリース 3.x のシステムにおける拡張ファイル名です。
<IDoctype>.ddf	リリース 3.x システムにおける短いファイル名です。
<IDoctype>_<version>_<release>.ddf	リリース 4.x のシステムにおける拡張ファイル名です。
<IDoctype>.ddf	IDoctype の最初の 8 桁が一意の場合、リリース 4.x システムにおける短いファイル名です。
<IDoctype 1-5><nm>.ddf	IDoctype の最初の 8 桁が一意でない場合の、リリース 4.x システムにおける短いファイル名です。

すべての転送が終了すると、画面にリストが表示されます。このリストでは、処理が完了した構造と、作成されたファイルとパス名に加え、エラーが発生した場合には有用な情報が提供されます。

ZIDXML3X の  
サンプル画面と  
エントリの説明

次の図に、ZIDXML3X レポートの [Selection] 画面を示します。



(次のページへ続く)

## 必須エントリ

次の表に、必須エントリをまとめます。

フィールド	説明
Object name	有効な SAP IDoc 構造の名前を入力します。  <b>例</b> ORDERS02  [Basic IDoc type] と [IDoc type] ( 基本の IDoc のタイプとユーザー エクステンション ) のオプションを使用して、要求する構造のタイプを指定します。複数を選択したり、パターンを使用することもできます。
SAP Release	有効な SAP リリースを入力します ( 例 :30A または 31I)。これは、要求された IDoc 構造がリリースされた SAP のリリースを表します。SAP の実際のシステム リリースではありません。
Local directory	ローカルのワークステーション、またはネットワーク上の有効なディレクトリを入力します。  既定のディレクトリは、現在の SAP の作業ディレクトリです。F4 を使用してローカルディレクトリを選択した場合は、表示されるサブ画面にファイル名を入力しないでください。すべてのファイル名はレポートによって生成されます。

## オプションのエントリ

次の表に、オプションのエントリをまとめます。

フィールド	説明
Extended filenames	XML ファイルの転送に拡張ファイル名を使用する場合は、このオプションを選択します。  拡張ファイル名をサポートするオペレーティングシステムでは、これが既定値です。
Short filenames	XML ファイルの転送に短いファイル名を使用する場合は、このオプションを選択します。

( 次のページへ続く )

## ZIDXML4X の サンプル画面と エントリの説明

次の図に、ZIDXML4X レポートの [Selection] 画面を示します。

## 必須エントリ

次の表に、必須エントリをまとめます。

フィールド	説明
Object name	有効な SAP IDoc 構造の名前を入力します。 <b>例</b> ORDERS02  [Basic IDoc type] と [IDoc type] (基本の IDoc のタイプとユーザー エクステンション) のオプションを使用して、要求する構造のタイプを指定します。複数を選択したり、パターンを使用することもできます。
Version	IDoc レコード タイプのバージョン (1、2、3 など) を入力します。  (次のページへ続く)

フィールド	説明
SAP Release	有効な SAP のリリース (31G または 40B など) を入力します。これは、要求された IDoc 構造がリリースされた SAP のリリースを表します。SAP の実際のシステム リリースではありません。
Local directory	ローカルのワークステーション、またはネットワーク上の有効なディレクトリを入力します。  既定のディレクトリは、現在の SAP の作業ディレクトリです。F4 を使用してローカルディレクトリを選択した場合は、表示されるサブ画面にファイル名を入力しないでください。すべてのファイル名はレポートによって生成されます。

### オプションの エン트리

次の表に、オプションのエントリをまとめます。

フィールド	説明
Extended filenames	XML ファイルの転送に拡張ファイル名を使用する場合は、このオプションを選択します。  拡張ファイル名をサポートするオペレーティングシステムでは、これが既定値です。
Short filenames	XML ファイルの転送に短いファイル名を使用する場合は、このオプションを選択します。